

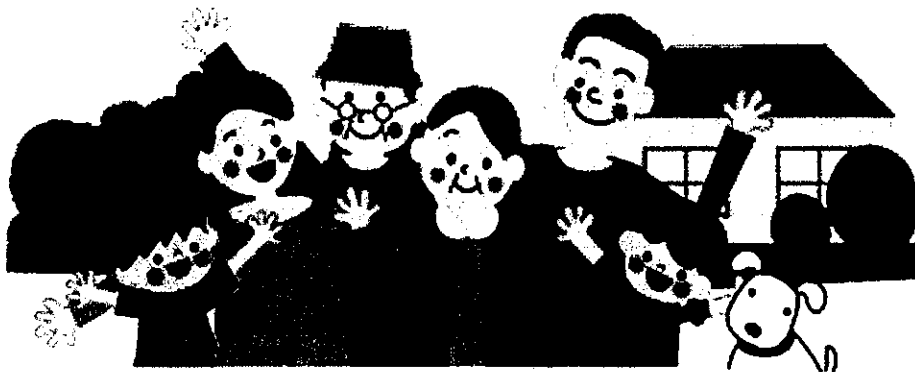
【注】

資料には令和5年度予算の内示額が掲載されていますが
3月市議会の議決を経て、正式に決定されるものです。



地域まちづくり未来事業計画

《 櫛引版 》



鶴岡市櫛引庁舎
令和5年2月現在

目 次

1	地域まちづくり未来事業計画について	P1
	(1) 策定の趣旨	
	(2) 計画期間	
	(3) 計画の位置付け	
	(4) 財源について	
2	櫛引地域の振興方針と施策の方向について	P3
3	櫛引地域の実施事業について	P4
	櫛引地域まちづくり未来事業一覧	
	個別事業資料	

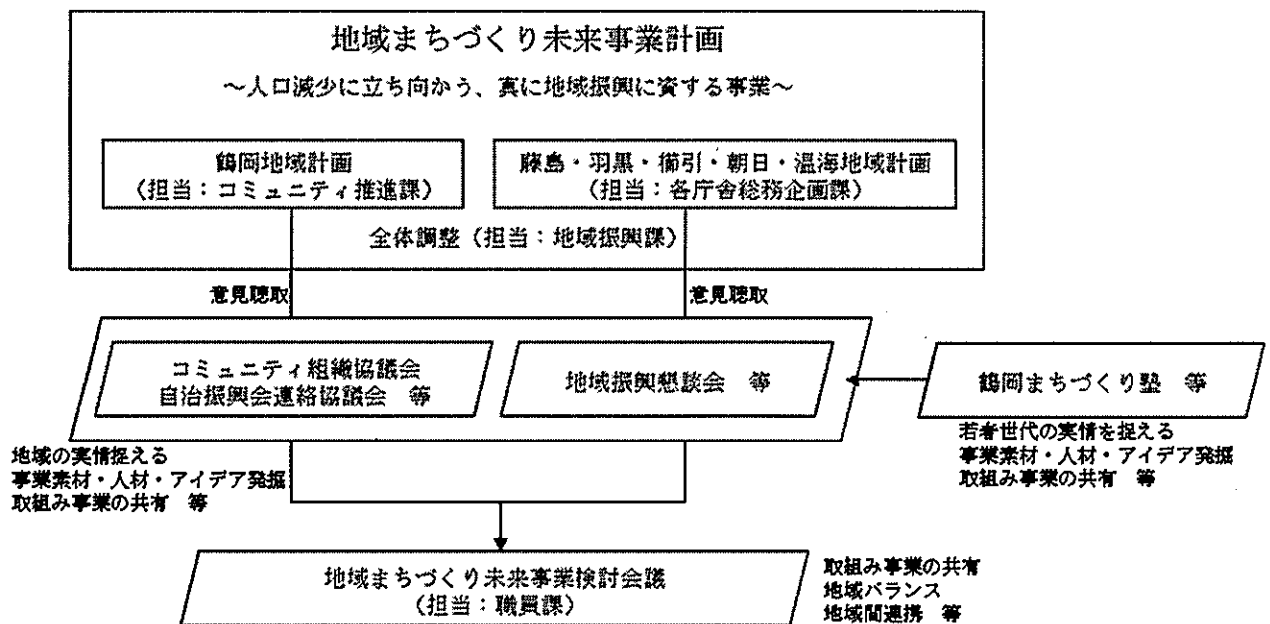
1 地域まちづくり未来事業計画について

(1) 策定の趣旨

「地域まちづくり未来基金」の設置目的である「地域社会・コミュニティの振興及び均衡ある発展」を図るため、「人口減少に立ち向かう、真に地域振興に資する」事業を地域まちづくり未来事業として実施することとし、これを地域まちづくり未来事業計画の中に位置づけ明らかにします。

地域まちづくり未来事業計画に基づいて地域ごとに事業を実施することにより、魅力あるまちづくりを推進するものです。

また、策定にあたっては、全ての地域が個性を発揮し、その魅力を高めるとともに、人材を育成していくまちづくり活動を活性化できるよう、各地域振興懇談会や鶴岡まちづくり塾、地域まちづくり未来事業検討会議など、様々な場面において地域の意見を伺い反映しています。



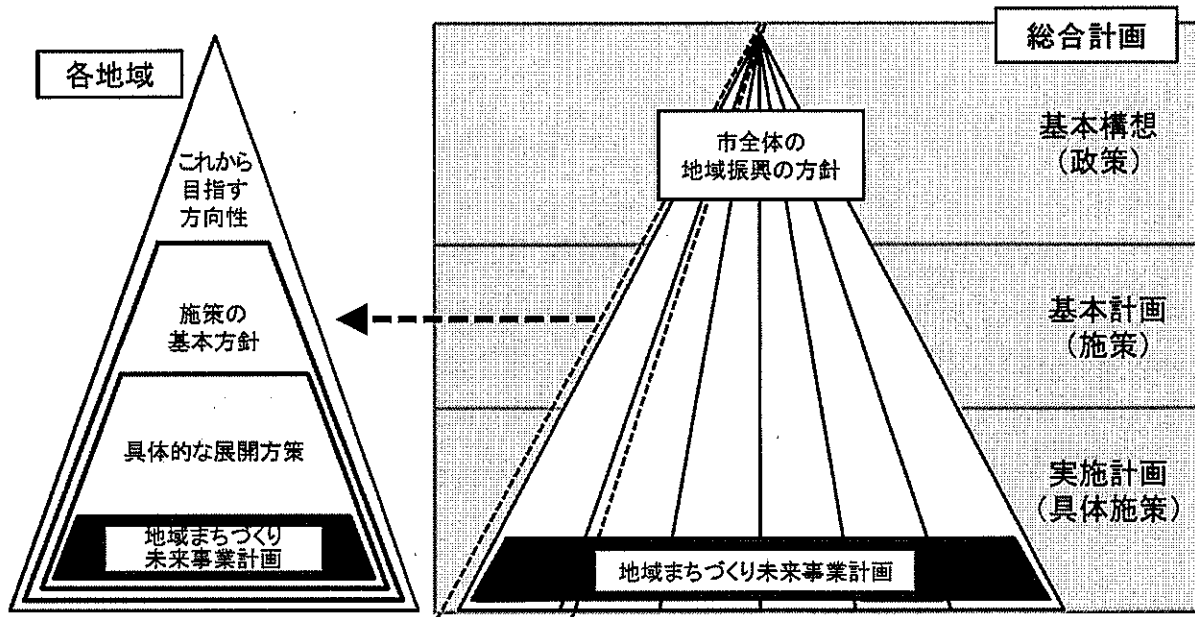
【地域まちづくり未来事業計画策定のイメージ】

(2) 計画期間

平成31年度から概ね3年程度とし、年度ごとに見直しを行います。

(3) 計画の位置付け

地域まちづくり未来事業は、第2次総合計画【計画期間：2019年度（平成31年度）から10年間】及び各地域の地域振興計画【計画期間：2019年度（平成31年度）から5年間】において、地域振興の方針を実現するためのより具体的な施策として位置づけられます。



【総合計画と各地域振興の方針・地域まちづくり未来事業計画の関係】

(4) 財源について

地域まちづくり未来事業は、主な財源として「地域まちづくり未来基金」を充てるほか、交付税措置の起債の充当のほか、活用できる国・県等の交付金なども活用します。

3 実施事業について

(令和5年度版)

橿引地域まちづくり未来事業一覧

(単位：千円)

No.	事業名	事業内容	事業費 (千円)	事業期間
1. 果樹産地の特色を生かしたマイクロツーリズムのまちづくり				
1	くしびきフルーツ振興プロジェクト事業	多品種少量生産の特色を生かし、四季折々のフルーツを楽しむ「フルーツの里くしびき」として果樹振興を図る。	3,679	R1~
2. 農業自然体験と観光交流の推進				
2	橿引地域都市農村交流促進事業	横浜青木小との交流、農家民宿の活動などを通じて交流人口の拡大や農産物の販路拡大などを促進する。	174	R1~
R2完了	たらのきだいネイチャーパーク事業	橿引たらのきだいスキー場は、ファミリーや初心者向けに重点を置くこととし、そのためにレンタル物品、そり乗り場やカラフル照明等を整備した。ほのかたらのきだいは、現状を勘案し運営や活用方法を検討していくこととして事業は完了した。	-	R1~R2
3. 地域を越えて広がる広域観光圏の形成				
	鶴岡市南部エリア観光周遊ルート魅力発信事業	本市南部エリア（橿引・朝日・黄金）の観光協会等との連携し、各種の観光資源等紹介や周遊ルートの設定することでマイクロツーリズムを推進し来訪者の増加を目指す。		R1~
4. 黒川能など、歴史文化の継承と活用推進				
3	黒川能保存伝承支援事業	保存伝承研究会（歴史文化講演会等）開催支援や東小児童仕舞い指導による担い手育成、黒川能保存会運営補助金による支援を行う。	2,868	R1~
4	能楽青年交流事業	首都圏大学等の能楽会宿誘致による黒川能PRと若手能役者との交流、黒川能伝習館の有効活用などを図る。	400	R1~
5	橿引地域歴史文化施設ガイダンス整備事業	広域観光形成と連携し、今後増加が見込まれるインバウンドの外国人観光客に対応できる施設環境の整備やデジタル化による地元ガイドの負担軽減と担い手の育成	0	R4~
R3完了	丸岡城跡環境整備事業	利用拡大のため大型バスでの来訪等にも対応できる駐車場の整備 ※令和3年5月21日完成	-	R2(～R3)
R3完了	黒川能アーカイブ事業	黒川能の映像・音声データのデジタル化保存と新たな音源を収録し、伝承活動への活用を図る。	-	R1～R3
R4完了	橿引綴れ織り文化保存事業	故遠藤虚籍の頭影と橿引綴れ織りの保存継承と認知度を高めるための情報発信等を支援する。	-	R1～R5
5. コミュニティの活性化と定住者の地域づくりの推進				
6	橿引地域デマンド交通導入事業	高齢化社会の住民ニーズに沿った既存の公共交通を補完する新たな地域公共交通システムを構築する。赤川右岸地域においてデマンド方式の公共交通の実証実験運行を継続するとともに、観光利用（マイクロツーリズム）の可能性を検討する。	4,213	R1~
7	橿引地域花いっぱい運動で環境美化推進事業	住民協働による市推奨花サルビア植栽活動で、美しく住みよい生活環境づくりを支援する。	350	R1~
8	くしびき夏のイベント推進事業	橿引地域住民が集う「くしびき夏まつり」について、住民交流による賑わいを創出と地域活性化を図る事業として支援する。(主催：JA、商工会、観光協会)	360	R1~
9	横綱柏戸記念館活性化事業	横綱柏戸・鶴山親方の偉業を知る地元の皆さんや産業観光スポーツ関係者の方々と協働で本館の活性化策を検討し、自主的なイベント等で来館者を増加させ、地域振興や産業観光振興等を図る。	450	R3～R6
10	ゆ～Town活性化事業	新たな魅力等を付加するイメージアップ事業により、地元の温泉施設としてより一層地域に浸透させ、地域住民の交流拡大による地域の活性化に向けた取り組みを行う。	430	R4~
	くしびき若者未来創造事業	地域の若者を対象とした研修や討論を通じてまちづくりへの若者の参画を図るとともに、施策への反映や活動成果が上がるように取り組む。		R1～R5
	山添校閉校後の跡地活用（検討）	山添校跡地の活用について県に確認、調整していくとともに市としての活用方法を探る。		R2~
R5組替	橿引地域希少淡水魚保存事業	絶滅危惧種イバラトミヨの種の保存と、公開展示や情報発信等による生態系保全や環境保護の推進を図る。	0	R1~
R6開始	やすらぎの赤川河畔エリア活性化事業	赤川かわまちづくり計画と連携した、橿引赤川エリアの橋梁、管理道路の更新や馬渡の桜並木、レンタサイクル、遊具等の整備	-	R6(R2)～R9
R1完了	橿引地域交通安全・防犯の日啓発事業	交通安全啓発として30年以上続いてきた毎月1日の「交通安全の日」の小旗掲揚について、新たに防犯啓発の内容も加えて小旗を更新し、チラシ等での周知により運動を促進	-	R1
R2完了	「空にかける階段」インフォメーション事業	橿引生涯学習センター内各所への作品展示、紹介パネル作成、QRコードからの市HP紹介映像へのリンクを実施し、事業を完了。高椋氏の作品の貸し出し事業、生涯学習センターへの展示については継続して実施する。	-	R1～R2
統合	橿引地域の情報発信事業（橿引PR事業）	フルーツ関連に特化した情報として、くしびきフルーツ振興プロジェクト事業の情報発信に統合した。	-	R1~
R3完了	橿引地域公共交通調査事業	市が計画してきた公共交通再編案の検証と裏付けの調査等を専門家に委託し、橿引地域公共交通の再編を図る。	-	R3
R4完了	「でわ宝」で地域おこしプロジェクト事業	「宝谷地区集落ビジョン」の達成のために行う事業（「でわ宝」を核とした地域活性化等）を支援する。	-	R3～R4
R4完了	橿引地域いきいき健康活動拠点運営への支援事業	高齢者の健康維持、生きがいづくり、閉じこもり予防のために各地区が自主的に取り組む活動を支援するため、各種講座・研修を企画するにあたり参考になる講座メニューやその申込先をわかりやすく一覧にまとめたリストを作成・配布するとともに事業実施に係るサポートを行う。		未来事業の位置づけとしては完了

合計 12,924 千円

・ 榊引地域は多品種少量生産ながら、四季折々のフルーツを楽しめる「フルーツの里くしびき」として果樹振興を図っている。
 ・ 果樹農家の高齢化に伴う離農や規模縮小により遊休樹園地等の増加が顕在化しており、今後この傾向が続くことが想定される。
 ・ 産地としての生産基盤を維持していくためには、次の担い手を確保していくとともに、園地をスムーズに継承していく仕組みづくりが必要である。
 ・ フルーツの里ブランド化の推進にあたっては、果実の安定生産及び付加価値の向上が求められる。

事業目的

- (1) 園地継承対策・後継者（担い手）の確保
- (2) 生産者の所得向上（果樹生産基盤の整備促進、フルーツの里ブランド化の推進）
- (3) 産地PR（観光果樹園の継続支援、プロモーションの実施等）

事業内容

- 「フルーツの里くしびき」のブランド化に向けて、「フルーツの里ブランド化支援事業（補助事業）」を実施し、鶴岡市における果樹振興のモデルケースとするべく取り組む。
- (1) 園地継承支援体制（マッチング）の構築等に向けた先進地視察研修会の実施
 - (2) 飲食店等と連携したフルーツフェア及びふるさと納税推進研修会の実施
 - (3) フルーツ食べ比べイベント及びプロモーション活動による産地PR
 - (4) SNSによる情報発信の継続

・ 「フルーツの里」ブランド化支援事業補助金 [R5予算額：3,529千円]
 ・ 事務経費 [R5予算額：150千円]

〔実施体制〕
 ・ 実施主体は、榊引地域産業振興プロジェクト推進協議会
 ・ 協議会で「フルーツの里推進員」を雇用し、事業推進

事業の方向性

● 多品種少量生産の特色を生かした「フルーツの里くしびき」のブランド化

↑ 果樹振興のモデルケース

事業の3本柱

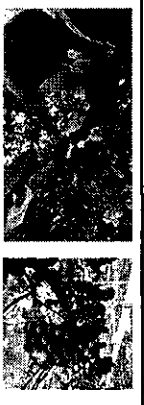
具体的取組

【1】園地継承対策・後継者の確保 30千円（新規）
 ○先進地視察研修会
 ・ 園地継承支援体制（マッチング）の構築等に向けた先進地視察研修会（想定：天童市玉得栗樹園）

【2】生産者の所得向上 150千円（継続）
 ○飲食店等と連携したフルーツフェア
 ・ R3:えくほフルーツフェア、R4:フルーツWeeksをベースに拡充
 ○ふるさと納税推進研修会
 ・ 販路拡大を支援→新規登録者獲得+既存登録者増強

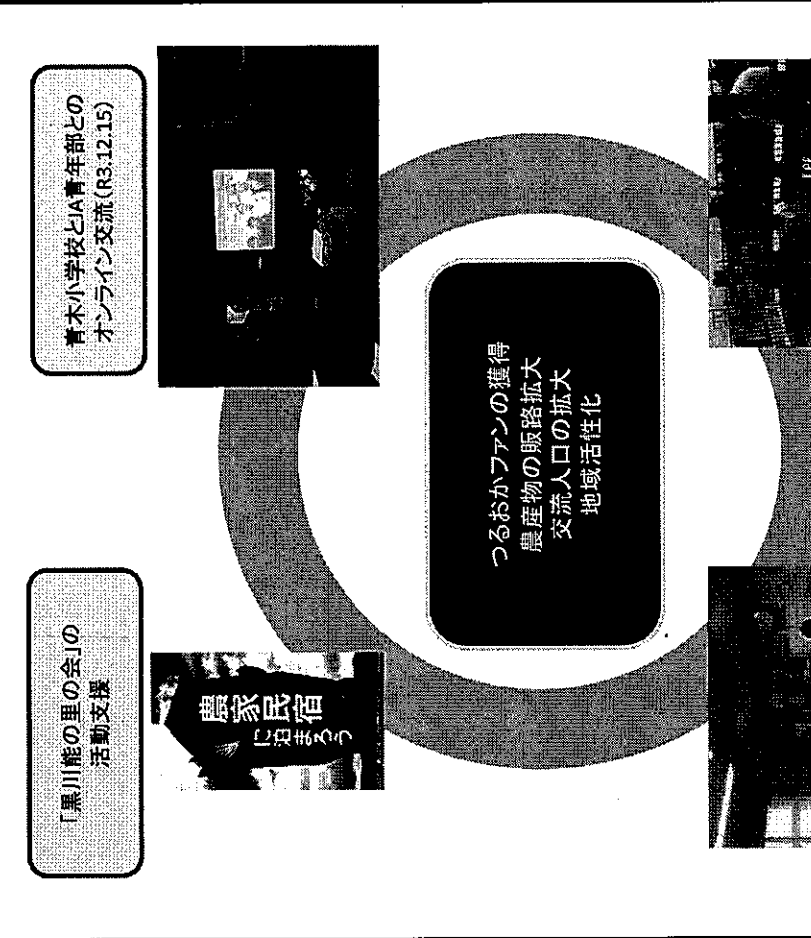
【3】産地PR 777千円（拡充）
 ○フルーツ食べ比べイベント【新】
 ・ 加工品等の料理教室+多品種食べ比べの体験型
 ○プロモーション活動【続】
 ・ 神楽坂産直のほか新規店舗等の拡大、観光果樹園への誘客
 ○フルーツ日記【続】 SNSでの情報発信、冊子版の発行

【4】ブランド力強化に向けた取組
 ○フルーツの里推進員の雇用継続 [2,572千円]
 ○事務経費 [150千円]
 消耗品費、大型プリンタリース代



実施年度	R1～	事業種別	継続 ソフト
榊引地域振興計画での位置づけ (2) 都市農村交流の推進			

青森県 黒川郡 住民 黒川



「黒川能の里の会」の活動支援

青木小学校とJA青年部とのオンライン交流(R3.12.15)

青木小学校校田でのJA青年部による稲作出前授業(6月)

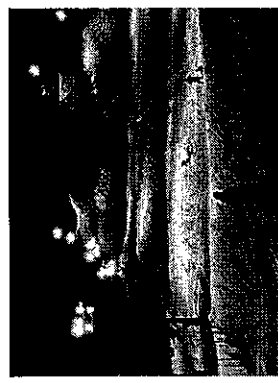
青木小学校行事「あおきふれあいまつり」でのJA青年部による農産物販売(10月)

事業名	榊引地域都市農村交流促進事業
事業目的	<p>JA庄内たがわ青年部榊引支部が昭和61年から取り組んできた横浜市立青木小学校との交流は、農業への理解促進をはじめ、榊引南小学校との相互交流や地域農産物の販売、学校給食での「つや姫」の使用などにつながってきました。また、修学旅行の受け入れは、民泊や農業体験、学校間交流など地域全体での取組みに発展している。JA青年部の取り組みを引き続き支援するほか、黒川地域の農家民宿3軒で構成する「黒川能の里の会」が実施する活動を支援し、特徴あるグリーン・ツーリズムの展開、交流人口の拡大等による地域全体の多面的な収益の拡大と活性化を図る。</p>
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ○農産物等販路拡大支援事業補助金 [R5予算額：174千円] <ul style="list-style-type: none"> ・稲作出前授業の実施、あおきふれあいまつりへの参加 ○農家民宿グループ「黒川能の里の会」の活動支援〔補助金はR4で終了〕 <ul style="list-style-type: none"> ・情報提供や助言等の側面的支援。
予算額	2023(R5)予算額 174 千円

30年近くにわたる都市農村交流は、都市部に鶴岡ファンを多く輩出しており、今後も観光振興やグリーン・ツーリズムの推進、農産物の販路拡大など、多面的な活性化を一層図っていくために、よりステップアップした事業を実施していくことが必要である。

実績(計画)及び今後の方向性

実績	千円
・推進協議会	13
・先進地視察	23
・ひまわり植栽実証実験	44
・基本計画策定	459
・そり乗り場整備	495
・レンタル物品整備補助	1,200
・カラフル照明整備	1,859
合計	4,093



評価

- ・スキー場利用者の増加が見込まれる。
- ・地域の活性化が図られる。
- ・既存施設の有効活用や施設経営の健全化が図られる。

今後の方向性

- ・栃引たらのきだきスキー場
市街地に近いことやナイター照明が完備している利点を生かし、地域に根ざしたファミリーや初心者向けのスキー場であることを運営の柱に据えて健全経営を継続する。
- ・ほのかたらのきだき
現状を鑑みると、通年誘客のために多額の予算を投じて整備することは現実的ではないと判断し、今後も活用方法等を検討しながら運営することとする。

事業名 たららのきだきネイチャーパーク事業

背景・課題・住民ニーズ

「栃引たららのきだきスキー場」は、ファミリースキー場として多くのスキーヤーやスノーボーダーから絶大な支持を得ているが、全国的なスノーボード人気の下落と共に入込み客数は全盛期の46%程度となった。
 「ほのかたらのきだき」は、地域資源活用型の農業構造改善施設として、また、栃引たらのきだきスキー場利用者への便益施設として、スキー場の厨房や食堂機能を有するロッジに宿泊施設や浴槽などを増築して開設した。当初は順調に経営していたが、利用者数は年々減少し、夏場における現在の利用者はほぼ皆無となった。
 しかし、地域住民や施設利用者からは、両施設存続の強い要望があり、また、民間事業者からは、両施設と連携して交流人口やインバウンドの増加を図りたいという提案がある。

事業目的

「栃引たららのきだきスキー場」と「ほのかたらのきだき」の機能を見直し、それぞれの施設の年間利用者を増加させること

事業内容

- 春夏秋季
両施設が連携して自然体験教室等が実施できる週末や期間限定の施設として整備
・花畑、遊歩道、みはらし台の整備
・自然体験学校などの実施
- 冬季
ファミリーや初心者向けスキー場を目指して整備
・初心者コースやそり乗り場の整備、リフトの整備、カラフル照明の整備、レンタル物品の整備
・民間活力活用用の検討
・自然体験施設等との連携や冬季インバウンドの受入れなど

上記の予定で進めてきたが、現状を鑑みると、通年誘客のために多額の予算を投じて整備することは現実的ではないと判断し、地域に根ざしたファミリーや初心者向けのスキー場としての整備を実施して、当事業は区切りをつけて完了することとした。なお、今後も活用方法等を検討しながら運営することとする。

事業名 鶴岡市南部エリア観光周遊ルート魅力発信事業

実施年度 RI～

事業種別 (3) 広域観光圏の形成

継続 ソフト

鶴岡市南部エリア観光周遊ルート魅力発信事業

本市の観光入込数は、加茂水族館(503,900人/R1、242,100/R2)と羽黒山(716,300人/R1、376,100/R2)を中心に回っており、プラスして4温泉地への滞在(872,000人/R1、457,200人 ※立ち寄り含む)であり、市内全域に目を向けた広域型観光の推進が求められる。

鶴引地域の黒川能の里王祇会館、加茂水族館、丸岡城跡史跡公園、観光果樹園等の特徴ある観光資源を有するが、鶴引・朝日・黄金地区などと連携した南部エリアとしての観光周遊ルートの確立と情報発信が不十分である。また、観光客に対する2次交通の確保が課題であるが、それに応える公共交通環境は整っていない。

地元居住者にも県内外からの来訪者にとっても、マイカーやレンタカーによる周遊が現実的であることから、車による市南部エリアの見どころ・景観スポットや周遊ルートの設定と情報発信を行うことにより、マイクログロツリズムの促進と観光需要の喚起につなげたい。

事業目的

鶴引地域の周辺には、朝日地域の即身仏や黄金地区の金峰山等が魅力ある資源が点在しており、これら隣接地域との南部エリアとしての広域観光圏を形成して見どころや周遊ルートを設定することで、四季に応じた地域資源の魅力発信が可能となる。

また、羽黒地域には本市の日本遺産であるの出羽三山(生まれ変わりの旅)やの松ヶ岡(サムライゆかりのシルク)もあることから、羽黒地域とも連携しながら広域観光の推進とともに、来訪者の増加を促進する。

事業内容

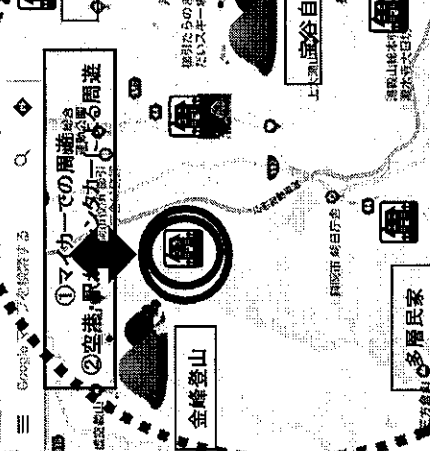
- 市南部エリアの周遊ルート確立のため、地域観光協会等の情報交換を推進する。
- 市南部広域観光の連携
- 市南部エリアの観光組織の連携のもと、見どころ・景観スポットの抽出や周遊ルートの設定を行い、情報発信を行いながらマイクログロツリズムを推進する。
- (鶴岡DEGAMと連携した県内外への情報発信含む)
- マイカー・レンタカーなど車による周遊の促進
- 空港・電車での来訪者も含め、鶴岡市内観光を行うには観光タクシーもあがるが、やはりマイカー・レンタカーである。車によるマイペースな旅・周遊を支援する。

実施年度 RI～

事業種別 (3) 広域観光圏の形成

継続 ソフト

鶴岡市南部エリア観光周遊ルート魅力発信事業



事業目的

鶴引地域の周辺には、朝日地域の即身仏や黄金地区の金峰山等が魅力ある資源が点在しており、これら隣接地域との南部エリアとしての広域観光圏を形成して見どころや周遊ルートを設定することで、四季に応じた地域資源の魅力発信が可能となる。

また、羽黒地域には本市の日本遺産であるの出羽三山(生まれ変わりの旅)やの松ヶ岡(サムライゆかりのシルク)もあることから、羽黒地域とも連携しながら広域観光の推進とともに、来訪者の増加を促進する。

事業内容

- 市南部エリアの周遊ルート確立のため、地域観光協会等の情報交換を推進する。
- 市南部広域観光の連携
- 市南部エリアの観光組織の連携のもと、見どころ・景観スポットの抽出や周遊ルートの設定を行い、情報発信を行いながらマイクログロツリズムを推進する。
- (鶴岡DEGAMと連携した県内外への情報発信含む)
- マイカー・レンタカーなど車による周遊の促進
- 空港・電車での来訪者も含め、鶴岡市内観光を行うには観光タクシーもあがるが、やはりマイカー・レンタカーである。車によるマイペースな旅・周遊を支援する。

事業名 黒川能保存伝承支援事業	実施年度 R1～ 事業種別 継続 ソフト 種引地域振興計画での位置づけ (4) 歴史文化の継承と活用促進
背景・課題・住民ニーズ 黒川能は、黒川地区の2つの能座により500有余年の間、連続と受け継がれてきたが、近年の人口減少や少子高齢化の影響で座加入の戸数および能役者、囃子方が年々減少傾向にある。独特の謡や舞、所作、囃子、着付けが特徴である黒川能を継承していくには長い年月を必要とするが、勤務形態や生活環境の変化、価値観の多様化、能役者の高齢化等により、人材の確保および十分な稽古の時間を確保するのも難しくなっており、保存伝承が危ぶまれている。そのため、若い世代に伝統芸能に誇りをもたらし活動とともに、文化資源を後世に継承していく仕組みづくりと、旅行者など黒川能の理解者の掘り起こしが必要となる。指定管理者である黒川能保存会は、主な収入を寄附金と公演収入としており、近年は寄附金も減少傾向にあり、また新型コロナウイルスの影響のため公演依頼も激減しており、厳しい財政状況となっている。	【保存伝承の課題】 ・人口減少 ・能役者の高齢化 ・生活環境、価値観の変化 【継承の仕組みづくり】 ・人的交流 ・理解促進 ・後継者育成 ・事業の円滑な運営
事業目的 近年の少子高齢化、生活環境や価値観の多様化により、人材の確保等が難しくなっており、保存伝承が危ぶまれているため、地元種引東小学校の児童に対し現役能役者による直接指導を行い、継承の意識付けをし、後継者を育成する。体験用能楽器（30年度整備）と能装束（31年度整備）を活用し、王祇会館を「見る」施設から「体験できる」施設にするとともに、春日神社との連携や体験メニューの開発をすすめる、黒川能への理解促進と来訪者の増加を図る。黒川能保存会の各種事業および管理運営体制を支援することで、継続的な保存伝承に寄与する。また、令和4年度に引き続き、酒井家庄内入部400年事業と連携し誘客を図る。	【事業内容】 ○保存伝承研究会の開催 (歴史文化講演会等 R4春日神社所蔵甲冑群公開調査 酒井家拝領品特別展示) ○後継者育成事業 (現役能役者による小学校児童への指導) ○黒川能保存会運営補助 ○体験メニューの企画、提供
事業内容 公益財団法人黒川能保存会が行う下記事業に対し補助を行い支援する。 ○黒川能保存伝習研究会 黒川能に造詣の深い識見者の講演会や伝統芸能の上演。 ○後継者育成事業 現役能役者による演能および囃子方の指導と水煙の能等成果発表機会の創出。 ○黒川能保存会運営補助 黒川能保存会の運営事務全般の補助	2023 (R5) 予算額 2,868 千円

大学能楽サークル等の稽古合宿誘致・受け入れ

【既存施設の利用促進】
【観光振興】

【学び・理解促進・交流】

- ・王祇会館
- ・黒川能伝習館
- ・農家民宿
- ・市内観光施設

- ・地元能役者との交流会
- ・イベント参加
- ・食文化
- ・農業体験
- ・住民生活



- 【能楽合宿（例）】
- ・伝習館能舞台での能楽稽古
 - ・農家民宿への宿泊
 - ・地元若手能役者との交流会
 - ・市内観光
 - ・装束、面等鑑賞

「能楽合宿地」としての確立

交流人口の増加および長期的な交流

事業名

能楽青年交流事業

現在、首都圏の大学の能楽サークルを対象に、能楽青年交流事業により、能楽合宿、地元若手能役者との交流を行っているが、その時限りの関わりとなつてきている。せつかく黒川に来てもらっても、短期間のため、黒川能と農業、地元住民の関わり、食文化等について、理解や体験があまり出来ずに終了してしまつてい

る。能楽合宿に参加したことをきっかけにリピーターとなつてもらいたい、黒川能への理解促進、農業や食文化等の体験をとおり、長期的な交流へと発展させたい。

また、黒川能伝習館には能舞台が設置してあり、地元の能役者の稽古に使用されているものの使用頻度は少なく、利活用について検討する必要がある。

事業目的

現在取り組んでいる能楽青年交流事業は、首都圏の大学生を対象に、夏季休暇を利用した能楽合宿を行っているが、その時限りの交流になっているため、この事業を毎年拡大し、1年を通じた能と農、住民生活の関わりを学んでもらい、能の理解促進、交流の継続につなげる。


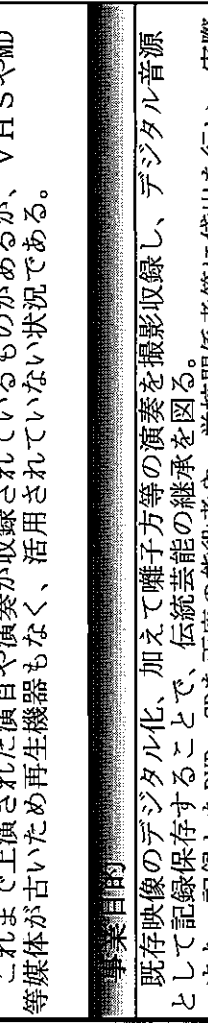
また、黒川能伝習館、王祇会館、農家民宿の利用促進、観光振興を図り、「能楽合宿地」という分野を確立する。

近年の新型コロナウイルス感染症による移動の自粛やサークル活動の停滞により稽古合宿が実施できないことから、地元のサークル等にも黒川能伝習館の能舞台を広く貸し出す等、既存施設の利活用、交流人口の増大を図る。

事業内容

- ・大学や青年層の能楽サークルを対象とした能楽合宿の誘致
- ・能楽合宿での黒川能伝習館の能舞台の貸館や農家民宿の斡旋
- ・地元の若手能役者や地元住民との交流
- ・能楽合宿に参加した学生の「水焰の能」への出演依頼
- ・地元農家での農業体験
- ・王祇会館や観能の観能またはボランテニア
- ・地元サークル等への黒川能伝習館の貸館

<p>事業名</p> <p>丸岡城跡環境整備事業</p>	<p>実施年度</p> <p>R2 (～R3)</p>	<p>事業種別</p> <p>(4) 歴史文化の継承と活用促進</p>	<p>完了</p> <p>ハード</p>
<p>背景・課題・住民ニーズ</p>			
<p>○丸岡城跡史跡公園は、史跡復元の面的整備を平成21年度末に完了し、続けて、平成28年度にはガイダンス施設として武家住宅旧日向家を復元整備して、以降、2,000人を超える観光客を迎えている。</p> <p>○バス等での来訪やイベント開催時には、市道が狭く進入できなかつたり、駐車台数が少なく利活用に支障をきたしていることから新たな駐車場整備を地元自治会や顕彰団体から強く求められている。</p> <p>○マイクログラス以上の大型車がガイダンス施設に進入できるよう市道の拡張を要望されているが、事業費が高額になるため、駐車場整備で支障事項の解決を図るもの。</p>			
<p>事業目的</p> <p>丸岡城跡史跡公園を会場としたイベント開催時には、市道が狭くマイクログラスが進入できなかつたり、現駐車場が狭いため来訪に支障をきたしている。新たに駐車場を整備し、大型バス等での来訪やイベント開催時の駐車容易にして、地域資源の更なる利活用を図りながら、観光振興、交流人口の拡大、地域の活性化に資するとともに、地元の顕彰活動を通じ地域コミュニティの充実に資するもの。</p>			
<p>事業内容</p> <p>大型バス等での来訪やイベント開催時の駐車に支障をきたしていることから、史跡公園近辺に駐車場を整備するもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○用地買収 [950㎡] R2年度完了 ○分筆登記業務委託 R2年度完了 ○測量設計業務委託 R2年度完了 ○駐車場整備工事 [乗用車14台、大型バス2台] <p>上記のとおり、令和3年5月21日工事完了し、供用を開始している。</p>			
<p>実績 (評価) 及び今後の方向性</p>			
<p>完成写真</p>			
<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駐車場を整備したことにより、大型バス等による来館の利便性が向上した。 ※令和4年度は酒井家庄内入部400年であり、関連する観光事業により来館者の増加が見込まれる。 <p>今後の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・案内看板やパンフレット整備など来館者へのサービス性向上を推進し、地域資源の更なる利活用を図る。 			
<p>R3完了</p>			

事業名 黒川能アークライブ事業	実施年度 R1～R3	事業種別 (4) 歴史文化の継承と活用促進	完了ソフト
背景・課題・任氏メッセージ			
<p>黒川能は、黒川地区の2つの能座により500有余年もの間、連続と受け継がれてきたが、近年の人口減少や少子高齢化の影響で、座加入の戸数および能役者が年々減少傾向にある。</p> <p>また、黒川能の囃子方は譜面だけでなく口承による指導、稽古で、特有の伝承方法であることから、途絶えかけた演目もあるといわれ、正確に継承していくのが難しい。</p> <p>独特の謡や舞、所作、囃子が特徴である黒川能を継承していくには長い年月を必要とするが、勤務形態や生活環境の変化により、人材の確保および充分な稽古の時間を確保するのも難しくなっており、保存伝承が危ぶまれている。</p> <p>これまで上演された演目や演奏が収録されているものがあるが、VHSやMD等媒体が古いため再生機器もなく、活用されていない状況である。</p>			
事業目的			
<p>既存映像のデジタル化、加えて囃子方等の演奏を撮影収録し、デジタル音源として記録保存することで、伝統芸能の継承を図る。</p> <p>また、記録したDVD、CDを両座の能役者や、学校関係等に貸出を行い、実際の稽古や伝統芸能の学習等に活用する。</p>			
事業内容			
<p>【R1年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・VHS映像のDVD化 102本 ・MDのCD化 47本 <p>【R2年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・VHS等映像のDVD化 28本 ・カセットテープ等音源のCD化 37本 <p>【R3年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・謡、囃子の新規録音 11曲 ・カセットテープ等音源のCD化 12本 ・既存DVD複写作成 113枚 ・貸出用ディスク複製作成 ・貸出体制の整備（要綱様式、リスト、ディスク用ラック） <p>各年、検討委員会開催（年2回）</p>			
実績（評価）及び今後の方向性			
<p>【実績（事業全体）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・VHS等映像のDVD化 130本 ・MD等音源のCD化 96本 ・謡、囃子の新規録音曲数 11曲 ・既存DVD複写作成 113枚 ・貸出用ディスク作成 ・貸出体制の整備（貸出要綱制定、貸出ディスク用ラック整備） 			
			
【今後の方向性】			
<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル化した映像や音源のデータは外付けハードディスクに保存しており、平成25、26年度に整備した能面装束の写真図譜データとともに将来的な保存伝承のため管理していく。 ・収録したディスクは、令和4年度から能役者や学校関係に貸出を行い、実際の稽古や伝統芸能の学習等に活用していく。 また、年次的に一般住民にも鑑賞用として広く貸し出しできるように、貸出体制について引き続き検討していく。 			
R3完了			

実施年度	R1～R4	事業種別	完了ソフト
榊引綴れ織り文化保存事業		(4)-2 歴史文化の活用促進 -①	
背景・課題・任氏・ス			

高名な錦綴れ織り工芸家の遠藤虚籜が丸岡に所在する天澤寺にて制作を行っていた時期があり、故人の遺志により虚籜綴錦織曼荼羅糸塚が建立されているなど縁が深い。また遠藤虚籜の技と魂を現代に伝える「手織りや虚籜庵」が公園に隣接する羅漢閣(一部が公園の案内所)で錦綴れ織りの製作活動を行っている。

課題

- ・糸塚など丸岡地域と遠藤虚籜との縁や綴れ織り工房である虚籜庵の認知度が低い。
- ・綴れ織りの製作者が少なく、高齢化しているが後継者が不在。

事業目的

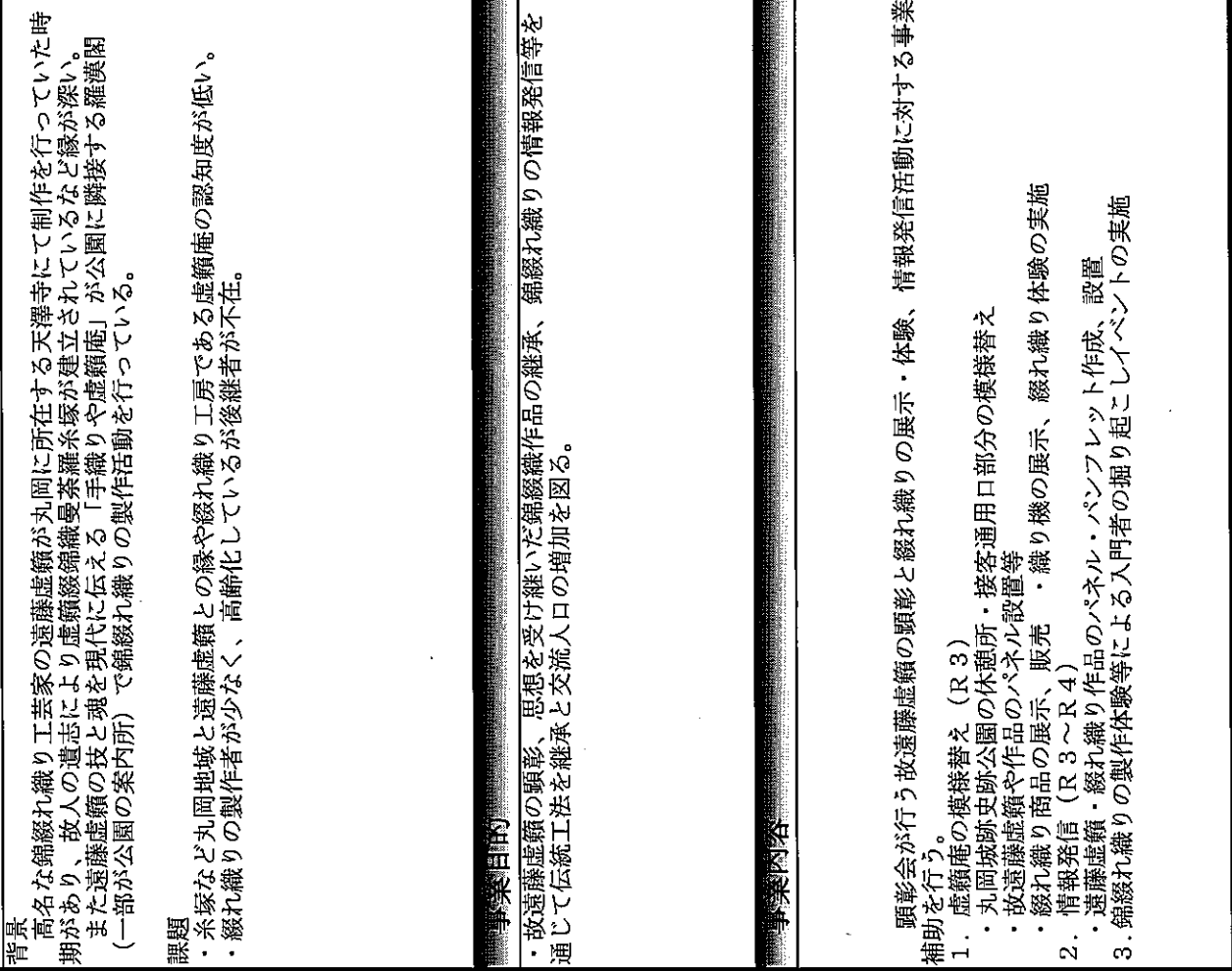
- ・故遠藤虚籜の顕彰、思想を受け継いだ錦綴織作品の継承、錦綴れ織りの情報発信等を通じて伝統工法を継承と交流人口の増加を図る。

事業内容

顕彰会が行う故遠藤虚籜の顕彰と綴れ織りの展示・体験、情報発信活動に対する事業補助を行う。

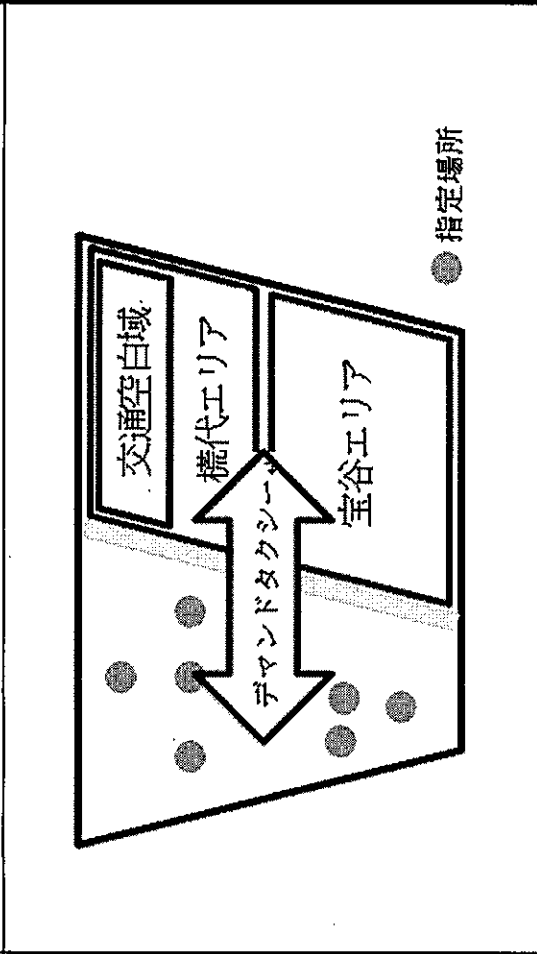
1. 虚籜庵の模様替え (R3)
 - ・丸岡城跡史跡公園の休憩所・接客通用口部分の模様替え
 - ・故遠藤虚籜や作品のパネル設置等
 - ・綴れ織り商品の展示、販売
 - ・織り機の展示、綴れ織り体験の実施
2. 情報発信 (R3～R4)
 - ・遠藤虚籜・綴れ織り作品のパネル・パンフレット作成、設置
3. 錦綴れ織りの製作体験等による入門者の掘り起こしイベントの実施

実績	<ul style="list-style-type: none"> ・R1、R2 案内所のレイアウト 展示資料の内容検討した。 ・R3 丸岡城跡史跡公園の案内所に綴れ織り作品や説明パネルの展示スペースを整備した。 ・R4 遠藤虚籜と錦綴れ織りに関するパンフレットを製作し鶴岡市内の観光施設などに設置した。 ・シルクミライ館に榊引の綴れ織りに関する資料を展示した。綴れ織り製作の体験イベントを実施した。
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・案内所を改装し、展示物を充実させたことと遠藤虚籜と榊引の綴れ織り等丸岡城址の魅力をより効果的に紹介できるようになった。 ・鶴岡市内の文化・観光施設への来訪者に遠藤虚籜や綴れ織りに対する関心を喚起し丸岡城跡への誘客を図ることができた。 ・シルクミライ館での資料展示や錦綴れ織りの製作体験イベントの実施により、榊引の綴れ織りや虚籜庵の活動に関する情報発信を行うことができた。 以上により交流人口増に資する施設整備・情報発信体制が構築できたため補助事業者と協議の上事業完了とした。



実施年度	R1～	事業種別	継続ソフト
梶引地域振興計画での位置づけ (5) 地域づくりの推進			

イラスト・写真等



● 指定場所

事業名 梶引地域デマンド交通導入事業

背景・課題 住民ニーズ

○高齢化や運転免許返納の増加により、日常生活に必要な移動手段を持たない人が増加しているため、移動手段を確保する必要がある。

○高齢化率の比較 (R4. 3. 31現在)

鶴岡市	梶引地域	梶引東地区
35.9%	38.3%	45.3%
43,583人	2,591人	1,017人

事業目的

○梶引の赤川右岸地域全体のデマンド型の公共交通を継続し、高齢者等の交通手段を持たない住民の日常生活を支援するとともに交通空白域を解消する。

○梶引の赤川右岸地域におけるデマンド交通（デマンドタクシー）を継続する。（令和3年11月18日実証実験運行開始）

事業内容

- 利用者の予約に応じて運行するデマンドタクシーの通年運行
赤川右岸地域（自宅から）と赤川左岸の商業施設や医院など16箇所の間を運行
機代ルートと宝谷ルートを1日おきに運行
運行便数は、午前2便（1往復）、午後2便（1往復）
運賃は、1回400円（黒川郵便局までは1回300円）
- デマンド交通の運営主体である梶引地域デマンド交通運営協議会の運営
- 同協議会による運行計画の見直し
- 利用登録者、利用率増への取組



実施年度	R1～	事業種別	継続 ソフト
構引地域振興計画での位置づけ		(5) 地域づくりの推進	

事業名 構引地域花いっぱい運動で環境美化推進事業

・S53年花と緑の町推進会議が結成され、花いっぱい運動がスタート。S55年に構引町の花「サルビア」を制定し、各地区自治会に植栽したサルビアを審査する花いっぱいコンクールを開催。S59年から国道112号歩道にサルビアを植栽し現任まで継続している。

・構引花と緑の会を結成し、市（補助金）、賛助金、地区自治会費を財源に事業を実施。

・国道112号の植栽花壇は、通称「サルビアロード」とよばれ、歩道植樹帯の設置によって交通事故を低減させる役割を果たすとともに、通行者に心のやすらぎを与えており、H20年には緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰を受賞している。

・国土交通省からの支援を受け、下山添地区老人クラブを中心に賛助会員、市職員や鶴岡南高校山添校等ボランティアの協力により支えられてきたものであり、今後も継続していくためには行政の支援が必要不可欠である。

・下山添地区老人クラブが国道花壇維持管理の中心を担っていたが、現在では対応できなくなってきたため当会の会長を中心に実施しているが、高齢化や担い手不足が課題となっており。また、国道植栽にボランティア協力をいただいていた鶴岡南高校山添校が令和3年度をもって閉校されたことにより、作業協力者の大幅な減少が懸念されたが、構引中学校が鶴岡南高校山添校の意志を継承しボランティア活動を担ってこられている。

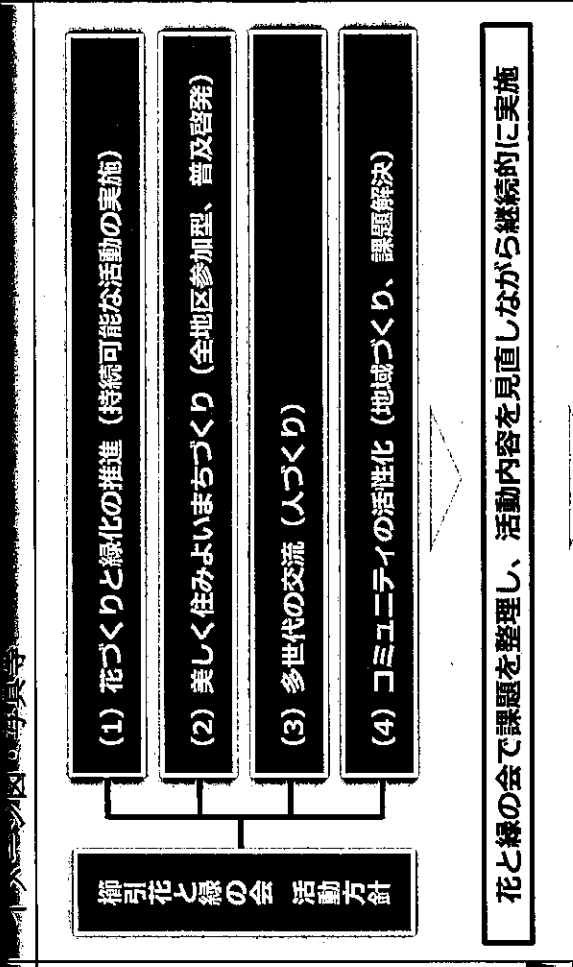
・今後も運動を継続していくためには、維持管理の担い手やボランティアの確保が必要である。

事業目的

- ・花づくりと緑化を積極的に推進し、環境を整え美しく住みよいまちづくりに貢献する。
- ・多世代の交流によるコミュニティの活性化を図る。

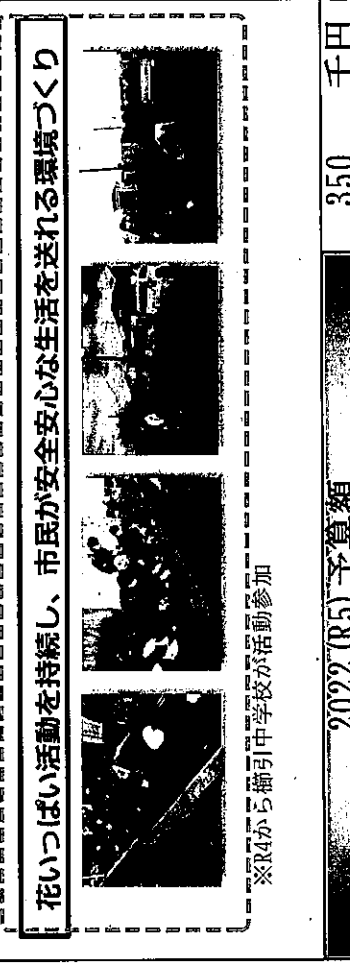
事業内容

- ・構引花と緑の会（事務局：構引庁舎総務企画課）が実施する、サルビアの植栽等費用に対して引き続き補助金を交付する。
- ・20地区の参加による花いっぱい運動とコンクールの実施
- ・国道112号四車線区間へのサルビア植栽と肥培管理



活動内容の見直し (R5)

- 国道112号植栽の見直し(R4に引き続きモリツグが継続)
- 国道112号植栽の栽培管理の負担軽減の施策を検討
 - ⇒ 補助設置を見直し「栽培管理」に要する経費を加える
- 国道112号植栽参加者への記念品プレゼント
 - ⇒ ボランティア参加者へ毎バツジをプレゼント（普及啓発）



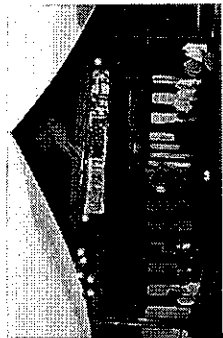
実施年度	R1～	事業種別	継続 ソフト
楡引地域振興計画での位置づけ			
(5) 地域づくりの推進			

背景・課題・任氏

少子高齢化の進行と人口減少、就業構造の変化などの要因により、地域の連帯感が希薄になっている。過去にはJAや商工会がそれぞれで夏のイベントを実施していたが、地域内の関係組織・団体が連携・協力して地域住民の交流の場を設定しながら、地域のまとまりや活力を維持していく取り組みが求められている。

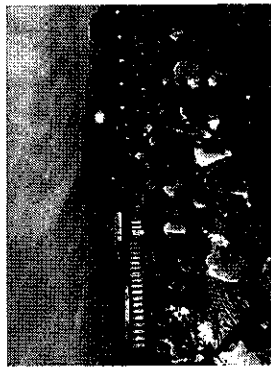
黒川能野外能楽「水焰の能」は、旧楡引町誕生30周年の記念事業の一環で開催したイベントで回教を重ねて楡引地域における夏の風物詩として定着している。

くしびき夏まつり



伝統芸能の発表

ステーショントラクション



※令和2年から令和4年までは新型コロナウイルスの状況を考慮し中止。

水焰の能(例年予算による開催)



黒川能 能一番 (ほかに狂言一番、東小児童の舞囃子)
 ※令和2年度は新型コロナウイルスの状況を考慮し中止。

総合運動公園の整備に伴い、黒川能野外能楽「水焰の能」の会場は楡引福祉公園から総合運動公園野外ステーションに移った。水焰の能のための舞台を設営して開催を重ねてきたが、その設営場所を夏まつりにも活用するということで、JA庄内たがわ(農業)、出羽商工会(商工)、楡引観光協会(観光)の関係団体が連携・協力のもと、地域住民が一堂に会する夏のイベント「くしびき夏まつり」を開催するもの。住民交流により賑わいを創出し、地域のまとまりを高めながら、人・もの・情報の交流を一層推進し、地域の活性化及び発展につなげること。

事業内容

7月の最終金曜日開催の「くしびき夏まつり」と最終土曜日開催の「水焰の能」を楡引地域の夏の二大イベントと位置づけている。

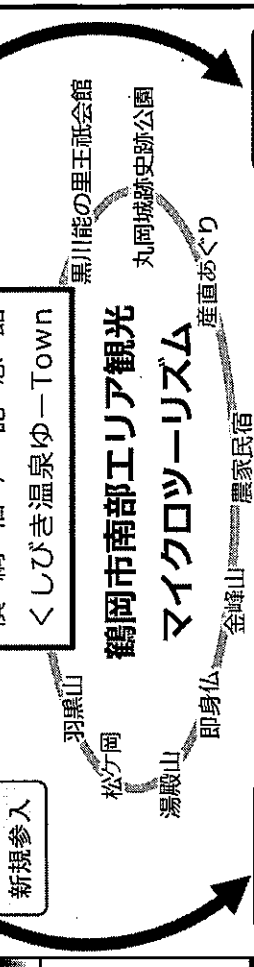
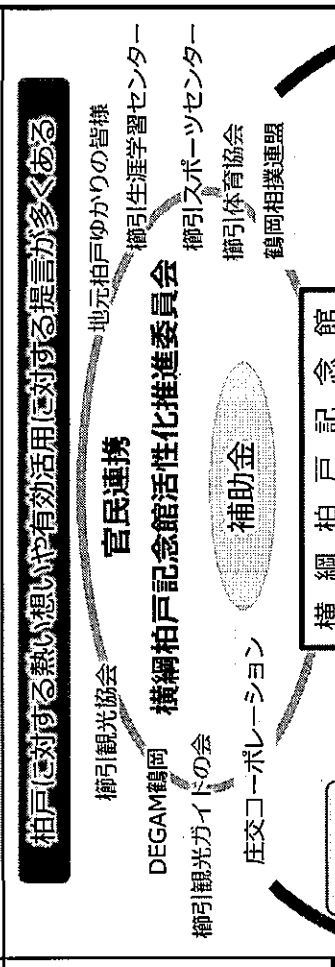
くしびき夏まつりは、業種や年代を超えて楡引地域の老若男女が集うイベントに定着しており、実行委員会の企画により伝統芸能の発表なども盛り込まれている。開催年ごとの実行委員会の協議により、新たなアイデアを加えながら、目的に沿った事業となるよう支援を行う。

農業団体、商工団体、観光団体等により組織される実行委員会を市が共催する形で運営補助金を拠出するとともに人的支援も行う。

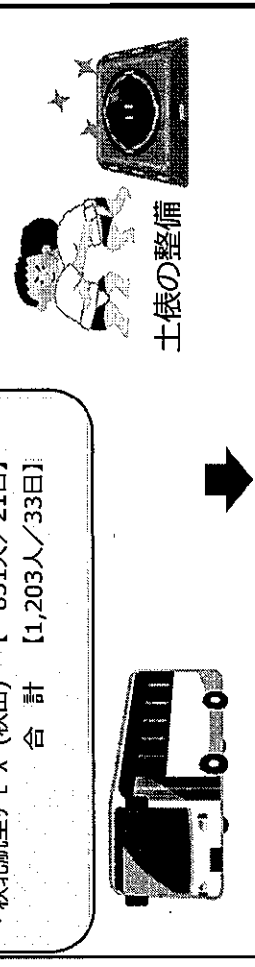
- 商業者等による展示販売、農業団体・産直組織による特産物や姉妹都市の特産品の紹介販売
- 子ども向けコーナーの設置 (バルーンアート、パッチャーカー、緑日コーナーなど)
- ステーショントラクションの実施 (伝統芸能の発表、歌謡ショーなど)

実施年度	R3～R6	事業種別	ソフト・事業補助
櫛引地域振興計画での位置づけ		(5) 地域づくりの推進	

背景・課題 住民ニーズ



観光	イベント
<p>令和元年度観光ガイド実績(櫛引観光ガイドの会対応分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟交通(新潟) [292人 / 10日] ・千曲旅行(長野) [80人 / 2日] ・秋北航空サービス(秋田) [831人 / 21日] <p>合計 [1,203人 / 33日]</p>	<p>鶴岡学童相撲大会歴史に幕 わんぱく相撲大会休止中 柏戸記念学童相撲大会や 講演会等の実施</p>



来館者の増加・地域連帯感の醸成・産業観光振興・
後世への伝承・収蔵品の適正管理

来館者(記帳者)R元:3,015人→R2:4,79人→R3:3,65人→R4:4,470人(見込み)→R4:3,000人(目標)

2023(R5)予算額 450 千円

事業名 横網柏戸記念館活性化事業

櫛引出身の名譽市民(旧名譽町民)で、県民栄誉賞第1号受賞者である大相撲第47代横綱「柏戸剛」は、今なお県内出身唯一の横綱であるが、残念ながら現役当時の雄姿を知る者は中高年の世代に限られている。横綱柏戸の偉業を顕彰し、後世に伝えるため平成16年には「横綱柏戸記念館」が建設された。記念館には、横綱柏戸の貴重な資料を保有しているが、解説文などが不足している。また、横綱柏戸の偉業が、現役当時を知らない世代や、地域外から訪れる方などへ広く周知、啓発する施設となっていない状況にある。

事業目的 横網柏戸・鏡山親方の功績をたたえ資料保存と公開を行う。
②ニッチな観光客のニーズに応え、館内の展示方法や改善点を整理するとともに、運営手法の検討や各種事業を展開するために産業観光スポーツ関係者らを中心に横網柏戸記念館活性化推進委員会を再生すべく、移築した鏡山部屋の稽古土俵を修繕し、そこで少年相撲(柏戸杯)大会を開催する。

事業内容

①第47代横綱柏戸・鏡山親方の功績をたたえ資料保存と公開を行う。
②ニッチな観光客のニーズに応え、館内の展示方法や改善点を整理するとともに、運営手法の検討や各種事業を展開するために産業観光スポーツ関係者らを中心に横網柏戸記念館活性化推進委員会を再生すべく、移築した鏡山部屋の稽古土俵を修繕し、そこで少年相撲(柏戸杯)大会を開催する。

[令和4年度]
①横網柏戸記念館活性化推進委員会での検討及び事業展開
・少年相撲大会や講演会等の実施
②土俵の整備

[令和5年度]
①横網柏戸記念館活性化推進委員会での検討及び事業展開
・少年相撲大会や講演会等の実施

2023(R5)予算額 450 千円

実施年度	R4～	事業種別	継続 ソフト
楠引地域振興計画での位置づけ (5) 地域づくりの推進			

伊メー・ジ図・号具寺

事業名	「くしびき温泉ゆ〜Town」活性化事業
-----	---------------------

背景・課題・住民ニーズ

【背景】健康増進施設として新たなスタートを切った「くしびき温泉ゆ〜Town」を、新規利用者を含めた利用拡大を図る。

【課題】
 ・管理運営事業に販売促進費用が含まれていないため、利用者の減少が懸念される
 ・フレイル予防事業の参加者は高齢者の占める割合が多く、若年層が参加しづらい状況となっている。

事業目的

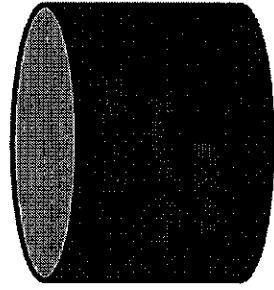
新たな魅力等を付加するイメージアップ事業により、地元の温泉施設としてより一層地域に浸透させ、地域住民の交流拡大による地域の活性化に向けた取り組みを行う。

- ①販売促進（販促商品開発、情報発信）
- ②健康増進（若年層向けの健康増進活動）

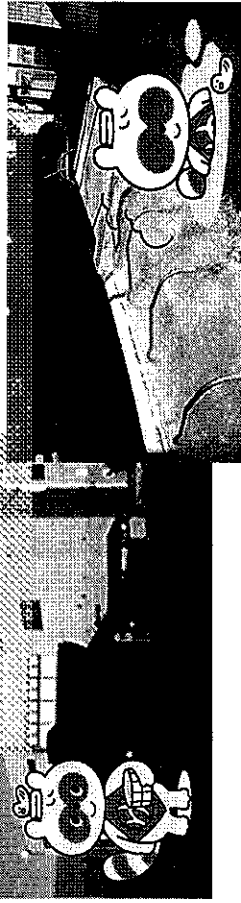
事業内容

- 【販売促進】
- ・R4年度にゆ〜Townオリジナルキャラクターを作成し、子どもや子育て世代、女性層の誘客を促進する働きかけを行った。
 - ・単年度では波及性が弱く、更なる誘客促進のため、販促グッズを作成し、キャラクターの定着をさせることで施設のイメージアップ、活性化を図る。
 - ・販促グッズ等を配布、また景品として活用。SNSでの情報発信に繋げる。
- 【健康増進】
- ・若年層向けの健康増進活動を継続して支援し、ゆ〜Townに若者を取り込む。（R4年度より継続して実施）
 - ・フレイル予防事業の財源である介護保険特別会計繰入金は、毎年事業のアップグレードを求められる。この事業で好評なメニューをフレイル予防事業で実施し、アップグレードをクリアする。

イメージアップ事業の取組



地域の居場所づくりとして
ゆ〜Townを提供する



期待される効果

- ・施設のイメージアップによる活性化で入浴者数増。
- ・販促グッズを活用して新規入浴者を獲得する。
- ・若年層が温泉を積極的に活用することにより今まで利用の少なかった若年層を取り込む。

2023 (R5) 予算額

430

千円

背景・課題 住民意識

地域のリーダーが高齢化してきており、次世代への継承を図るため、地域のみちづくりをリードしている若い人材を発掘・育成することが急務となっている。また、事業を通して若い世代の人脈拡大、新たなまちづくり事業の提案・実施を行うことで、地域貢献や地元定着につなげる。

くしびき若者未来創造事業

協働のまちづくり、地域の未来創造には、若者の英知と独創的アイデア、そして行動するエネルギーが不可欠であることから、榊引地域の若者による研修や交流等を通じて、地域のまちづくりを牽引していただけるよう人材の育成に寄与する。
 令和2年度から気軽に話し合う場として、参加者同士の人脈を拡大しながら若者が地域づくりに関わるきっかけとなるワークショップ「かだりばくしびき」を開催している。

事業内容
 榊引地域に在住・在勤する高校生からおおむね40代の若者による研修等の事業を実施し、参加者が実施することを想定した事業の検討を行う。
 【令和元年度】・仕掛人養成講座への参加5回（榊引生涯学習センター主催）
 【令和2年度】・ワークショップ1回
 【令和3年度】・ぶどう狩りや施設見学など、榊引フィールドを感じながらのワークショップを3回開催
 【令和4年度】
 ・くしびき温泉ゆ〜Townを盛り上げるアイデアや仕掛けづくりについて話し合うワークショップを3回開催
 第1回：ゆ〜Townってどんな場所？見て、きいて、知ろう！
 第2回：ゆ〜Townを盛り上げる仕掛け、アイデアを考えよう！
 第3回：アイデアをまとめ、未来につなげよう！
 【令和5年度】
 予算の伴わない事業としてワークショップ、実践につながる事業展開を検討

これまで・・・
 職場、家族、仲間以外に地域の若者同士が話し合う場、機会」がほとんどない

住み続けたい地域を目指す
 ○自分(たち)の考えや思いを語り合い交流を深めよう
 ○興味のあることを研修してみよう
 ○自分(たち)でやってみよう

地域づくりに関わるきっかけ作り、自分自身のスキルアップ
 ●自分(たち)の活動を継続しながら、他との連携(仲間づくり)
 ●市の施策への反映、地域づくりの実践
 ●WS等で話し合ったことを成果に結びつける

実践
 ○〇〇が地域にあったら楽しそう！
 今やっていることを、他の何かと一緒に出来ないかな？
 楽しいことやってみよう！

交流
 私たちの活動を一緒にやってみない？
 こんなことを考えてるんだけど...
 榊引にこんな楽しいところがあったん

再確認
 榊引フィールドを体験しながら、集まって語り合い、互いの活動のヒントや新しい視点を見つける「場」として活用！サードプレイスの創出

背景・課題 住民意識

地域のリリーダーが高齢化してきており、次世代への継承を図るため、地域のみちづくりをリードしている若い人材を発掘・育成することが急務となっている。また、事業を通して若い世代の人脈拡大、新たなまちづくり事業の提案・実施を行うことで、地域貢献や地元定着につなげる。

くしびき若者未来創造事業

協働のまちづくり、地域の未来創造には、若者の英知と独創的アイデア、そして行動するエネルギーが不可欠であることから、榊引地域の若者による研修や交流等を通じて、地域のまちづくりを牽引していただけるよう人材の育成に寄与する。
 令和2年度から気軽に話し合う場として、参加者同士の人脈を拡大しながら若者が地域づくりに関わるきっかけとなるワークショップ「かだりばくしびき」を開催している。

事業内容
 榊引地域に在住・在勤する高校生からおおむね40代の若者による研修等の事業を実施し、参加者が実施することを想定した事業の検討を行う。
 【令和元年度】・仕掛人養成講座への参加5回（榊引生涯学習センター主催）
 【令和2年度】・ワークショップ1回
 【令和3年度】・ぶどう狩りや施設見学など、榊引フィールドを感じながらのワークショップを3回開催
 【令和4年度】
 ・くしびき温泉ゆ〜Townを盛り上げるアイデアや仕掛けづくりについて話し合うワークショップを3回開催
 第1回：ゆ〜Townってどんな場所？見て、きいて、知ろう！
 第2回：ゆ〜Townを盛り上げる仕掛け、アイデアを考えよう！
 第3回：アイデアをまとめ、未来につなげよう！
 【令和5年度】
 予算の伴わない事業としてワークショップ、実践につながる事業展開を検討

これまで・・・
 職場、家族、仲間以外に地域の若者同士が話し合う場、機会」がほとんどない

住み続けたい地域を目指す
 ○自分(たち)の考えや思いを語り合い交流を深めよう
 ○興味のあることを研修してみよう
 ○自分(たち)でやってみよう

地域づくりに関わるきっかけ作り、自分自身のスキルアップ
 ●自分(たち)の活動を継続しながら、他との連携(仲間づくり)
 ●市の施策への反映、地域づくりの実践
 ●WS等で話し合ったことを成果に結びつける

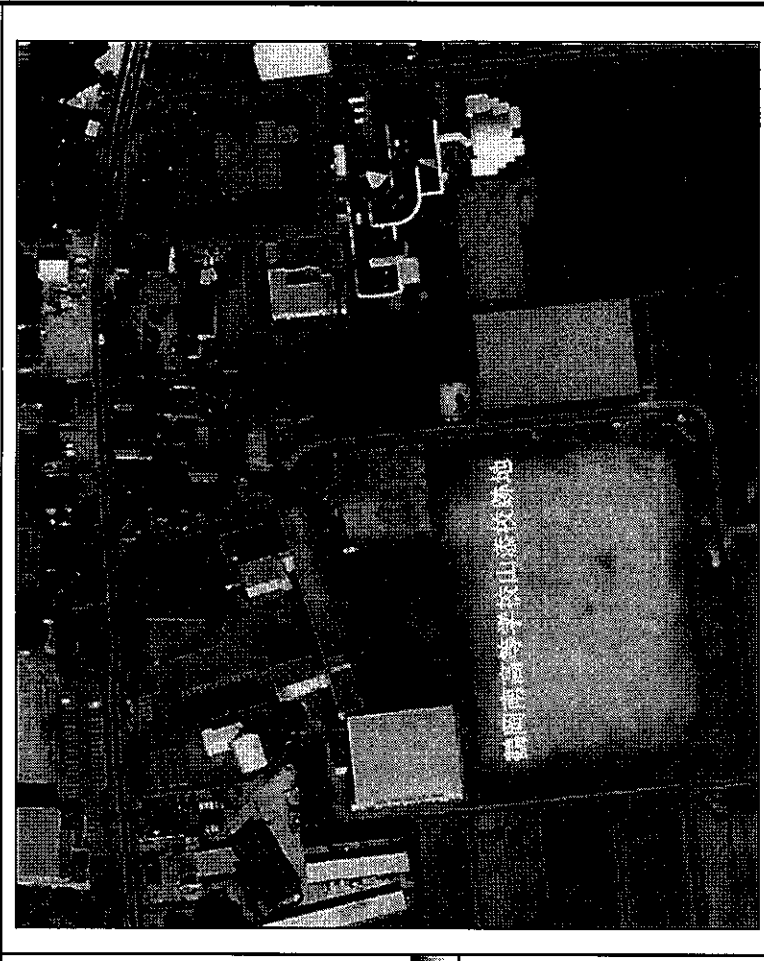
実践
 ○〇〇が地域にあったら楽しそう！
 今やっていることを、他の何かと一緒に出来ないかな？
 楽しいことやってみよう！

交流
 私たちの活動を一緒にやってみない？
 こんなことを考えてるんだけど...
 榊引にこんな楽しいところがあったん

再確認
 榊引フィールドを体験しながら、集まって語り合い、互いの活動のヒントや新しい視点を見つける「場」として活用！サードプレイスの創出

実施年度	R2～	事業種別	継続	ハード・ソフト
縮引 地域振興計画での位置づけ		(5) 地域づくりの推進		

イメーシング図・写真等



活用アイデア (R3.11.27かたりばくしひきvol.3WSより)

スポーツ施設 (ジム)、勉強・交流スペース (不登校児の居場所、放課後
 ティサービス)、動物保護施設 (動物診療所・ドックラン)、カフェ (学
 ども食堂、キッズスタジオ、動物)、本屋 (漫画図書館)、別居
 スペース (日本習慣学校)、キャンプ場 (宿泊施設)
 ワークスペース (スタジオ)、体験施設 (工芸教室、
 音楽教室)、お茶栽培 (柿・梨)、サイクリング
 屋)、写真館 (コスプレ撮影所)、美術館
 屋)、屋台、お化け屋敷

事業名 山添校閉校後の跡地活用 (検討)

背景・課題 住民ニーズ

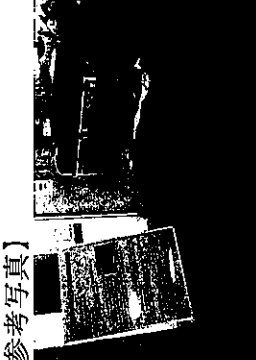
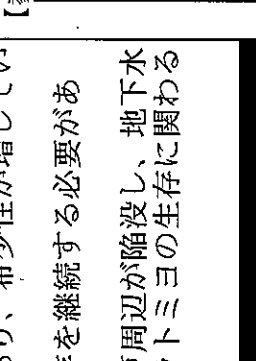
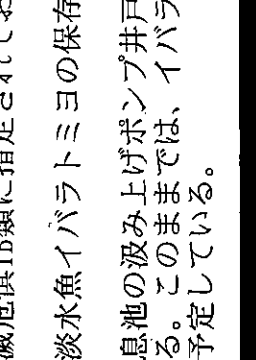
- 山添校は令和3年度末で閉校となったが、鶴岡南高・中高一貫校の部活動の
 場として、グラウンド・体育館は県で引き続き活用されている (活用は最長全
 和7年度ごろまでを予定)。スポーツ団体への一般開放事業も継続して行われ
 ている。
- 縮引地域の中心地において巨大な遊休施設とならないようにと、地域振興懇
 談会や市議会での跡地活用を望む声がある。
- 手狭となつて西学区保育所については検討を重ねたが、学童保育は学
 校で行うが望ましいという国の考え、児童の道路の横断、運営団体の経費負担
 増、将来的な少子化を鑑み、現時点ではハードルが高いという認識に至った。
- 縮引庁舎としては人工芝サッカー場の整備を核に活用を模索してきたが、市
 全体の方針として鶴病跡地に決定したため、考えの再構築が必要。
- 校舎棟は、閉校以来、県での活用はされおらず、設備の老朽化等が進んで
 おり、その活用には慎重な姿勢が必要。

事業目的

県での使用が終了した後巨大な遊休施設とならないよう、①所有者である県
 への働きかけ、②市や民間での活用方法の模索、の順番で検討を重ねる

事業内容

- 関係部署と連携して、県での活用、処分、条件等について、意向確認や調整
 を進めてきた。(R2にメールでの確認、R3に県庁訪問、R4もメールや電
 話で状況確認)
- 県への重要事業要望にて山添校跡地の活用についても要望 (R3年5月～)
- 人工芝サッカー場が鶴病跡地に決定したことに伴い、跡地の活用や処分につ
 いて所有者である県へ改めて働きかけをしていく (県でもサッカー場整備の動
 向を見守っていた)。
- 県への要望や調整を進めつつ、県での活用・処分が見いだせないことも考慮
 し、市や民間としての活用方法について、サウンディング調査 (対話型市場調
 査) の導入も視野に入れて、改めて模索していく。

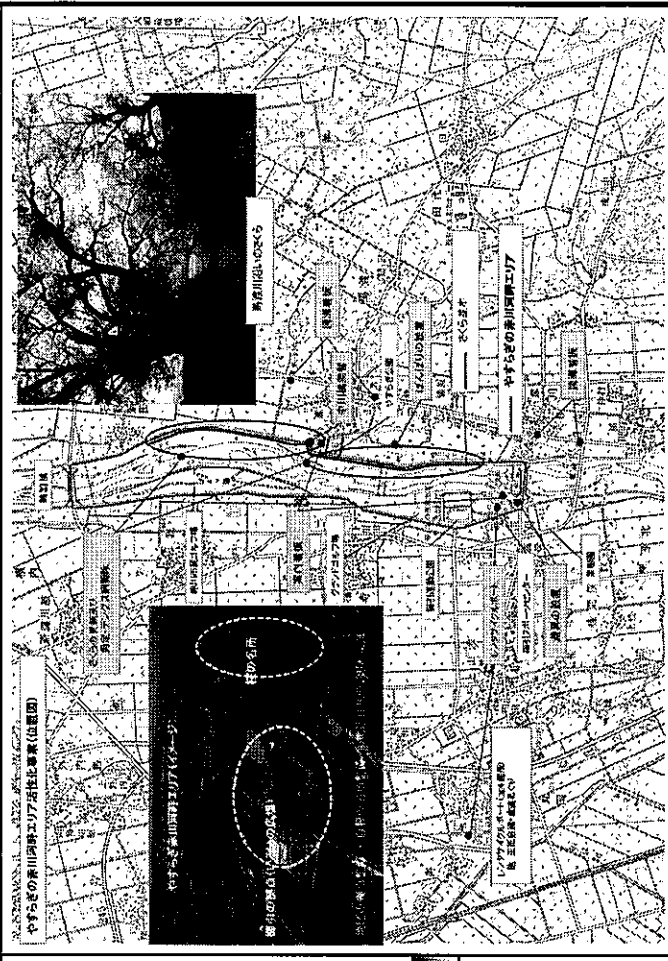
事業名	実施年度	事業種別	組替えソフト
<p>榊引地域希少淡水魚保存事業</p> <p>榊引地域希少淡水魚の保存は、榊引町時代の平成6年から継続しているものである。希少淡水魚イバラトミヨの保存は、平成6年から継続しているものである。希少淡水魚イバラトミヨの生息池がある板井川地区では、平成20年に地元有志当該イバラトミヨの生息池を守る会」が設立され、地域の宝として生息池の清掃や周辺の草刈りなど、地域ぐるみで希少淡水魚の保全に取り組んでいる。</p> <p>また、山形県では平成30年度にレッドリストを改定し、当該イバラトミヨは準絶滅危惧種から絶滅危惧IB類に指定されており、希少性が増している。以上のことから、希少淡水魚イバラトミヨの保存を継続する必要がある。</p> <p>令和4年度に2回、生息池の汲み上げポンプ井戸周辺が陥没し、地下水汲み上げ量が減量している。このままでは、イバラトミヨの生存に関わるため令和5年度に修繕を予定している。</p>	<p>令和5年度 R1~R4</p> <p>榊引地域振興計画での位置づけ</p> <p>実施年度 R1~R4</p> <p>事業種別 (5) 地域づくりの推進</p>	<p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> イバラトミヨ生息池の借上契約を行った。 令和元年から榊引生涯学習センターにて約1ヶ月の飼育展示を実施。 飼育展示について音声告知放送、文字放送を使い発信 市ホームページにてイバラトミヨについての記事を掲載した。 <p>【参考写真】</p>   <p>令和5年度飼育展示の様子</p> 	<p>組替えソフト</p> <p>(5) 地域づくりの推進</p>
<p>事業目的</p> <p>絶滅危惧種である希少淡水魚（イバラトミヨ）の種の保存活動を地元組織と連携をとりながら継続していくことが地域の環境保全につながるものとして、生態系保全や環境保護の機運醸成を図る。</p> <p>また、公共施設での展示や地域の小学校にも働きかけを行うなど、地域の目玉として情報発信を行うことで地域の活性化にもつなげていく。</p>	<p>HP掲載記事</p> <p>イバラトミヨの様子</p> <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度から通常予算（環境課予算）へ組替えとなったが、事業内容は今後も継続して行っていく。 公共施設での展示や小学校に働きかけを行うなど、環境学習の情報発信を強化する。 	<p>HP掲載記事</p> <p>イバラトミヨの様子</p> <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度から通常予算（環境課予算）へ組替えとなったが、事業内容は今後も継続して行っていく。 公共施設での展示や小学校に働きかけを行うなど、環境学習の情報発信を強化する。 	<p>組替えソフト</p> <p>(5) 地域づくりの推進</p>
<p>事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> イバラトミヨの生息池借上 ポンプ設置用地借上 地下水汲み上げポンプの電気料負担 情報発信の強化（生息池が特定されない範囲で行う） 公共施設でイバラトミヨを飼育展示するとともに学校などと連携した活動の実施 	<p>令和5年度 R1~R4</p> <p>榊引地域振興計画での位置づけ</p> <p>実施年度 R1~R4</p> <p>事業種別 (5) 地域づくりの推進</p>	<p>組替えソフト</p> <p>(5) 地域づくりの推進</p>	<p>組替えソフト</p> <p>(5) 地域づくりの推進</p>

実施年度	R6 (R2)～R9	事業種別	継続 ハード・ソフト
楠引地域振興計画での位置づけ (5) 地域づくりの推進			

事業名	やすらぎの赤川河畔エリア活性化事業
-----	-------------------

背景 課題 住民ニーズ

1. 子どもが、遊べる公園・環境が少ない。
 2. 年齢問わず地区民の“いこいの広場”としてのスポーツセンター付近を拠点施設として 整備し地域住民の誇りと元気を醸成するものである。
 3. 桜開花時期、やすらぎ公園沿いにぼんぼり設置要望がある。
 4. 桜の手入れ不足の声 (テングス病駆除や大枝剪定)
 5. 桜の開花時期に必ず馬渡川付近への行き方についての問い合わせがあるが、道路標識が無いため、説明に苦慮する。



事業目的

多くの地域資源が集積する「やすらぎ赤川河畔エリア」を一体的にとらえ適切な管理と活性化を施すことで、交流人口を増やしにぎわいを創出する。
 また、スポーツ公園付近に遊具の新設、年齢問わず地区民の“いこいの広場”としてのスポーツセンター付近を拠点施設として整備し地域住民の誇りと元気を醸成するものである。

事業内容

- やすらぎの赤川河畔エリアは住民いこいの場の拠点化
- ①周辺施設との赤川周遊 (右岸含む) が出来るレンタサイクルの配置。
(サイクルポート:4箇所;スポーツセンター、産直あぐり、王祇会館、丸岡城跡)
- ②誘導案内看板4基 (馬渡川の桜づつみへのアクセス)
- ③利用案内看板2基 (ジョギング等の案内用)
- ④桜並木の適切な管理 国、地元、市の三者協定による計画的更新、テングス病駆除大枝剪定
- ⑤ちびっこ広場に遊具設置

「赤川かわまちづくり計画」で整備検討されるもの

実施年度	RI	事業種別	完了 ソフト
櫛引地域振興計画での位置づけ		(5) 地域づくりの推進	

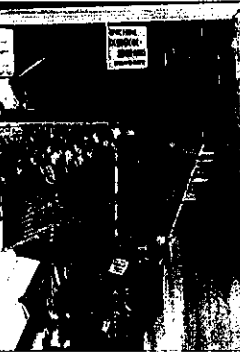
【実績】

- 令和元年10月末に小旗を全戸配布。合わせて啓発用にチラシも配布。
- 全戸配布前の明るい地域づくり櫛引大会内で、小旗の贈呈式を行った。
- 小旗掲揚数調査を実施。(令和元年10月と11月、令和2年4月の計3回)
- 小旗と同様の内容でのぼり旗を作成し、各地区や事業所に配布した。
- 毎月1日は音声告知放送で住民に周知(令和2年度からは前日も放送)。
- 毎月1日は庁舎前にのぼり旗・小旗を掲揚。(荒天時を除き、前日夕方から掲揚)

(参考) 掲揚調査結果

区分	2回目(2019.11.1) ※小旗更新後		3回目(2020.4.1)		4回目(2021.4.1)		5回目(2022.6.1)	
	調査戸数	掲揚戸数	調査戸数	掲揚戸数	調査戸数	掲揚戸数	調査戸数	掲揚戸数
西地区	721	202	718	147	726	178	727	197
東地区	248	65	248	74	265	88	263	103
南地区	321	119	321	141	328	144	355	162
全体	1,290	386	1,287	362	1,319	410	1,345	462

調査方法 ※西・東・南地区から4地区ずつ、計12地区を対象に実施。



更新後小旗掲揚の様子



のぼり旗

【評価】

- 小旗更新後の令和元年11月1日調査では、更新前より掲揚率が全体的に増加した。(17%⇒30%)
- 掲揚率はほとんどの地区で増加したものの、地区によって差がある。

【今後の方向性】

- 交通安全や防犯など関係団体が協力して啓発を行う。
- 音声告知放送や広報を活用し、引き続き地域全体に周知・啓発を行う。

RI完了

事業名	櫛引地域交通安全・防犯の日啓発事業
-----	-------------------

【背景・課題・住民ニーズ】

櫛引地域では昭和30年から、毎月一日を「町交通安全の日」と定め、地域住民や通過車両に交通安全を呼びかける目的で、町(市)で配布した黄色い小旗を家の入口や門柱に掲げて交通安全を啓発する運動を行っている。これは櫛引地域に深く浸透しており、地域独自の運動として現在まで継続しているものである。

旗は最初の全戸配布から30年以上経過し、各地区からは旗の老朽化や紛失の声も多数寄せられたほか、配布後に地域に住民が始めた家庭には配付されていない、地区によっては取り組み姿勢に差があるなどの課題があった。

また、櫛引地域では夏の安全県民運動期間中や秋の交通安全運動期間において、立哨指導や「000(なしなしなし)作戦」などを鶴岡市防犯協会櫛引支部と連携して実施するなど、防犯活動にも積極的に取り組んでいる。

【事業目的】

交通事故・犯罪のない安全で安心な町を実現するため、これまでの「交通安全の日」の旗を新たに「交通安全・防犯の日」と改めて作成・配布するとともに、広報や音声告知放送などで改めて活動の趣旨を説明することで、櫛引地域の住民や通過車両に対して交通安全・防犯の意識を醸成する。

【事業内容】

- 新たに防犯啓発の内容も加えた「交通安全・防犯の日」の旗を作成し、RI.10月末に櫛引地域に全戸配布。
- 啓発チラシ全戸配布
- RI.10.20に行われた明るい地域づくり櫛引大会では小旗の贈呈式を行ったほか、大会宣言に小旗掲揚運動の推進による意識高揚を盛り込み、一層の運動推進を確認した。
- 毎月1日は音声告知放送にて周知を行い、庁舎前にも小旗を掲揚する。
- R2年度以降は、小旗の補充・交換分を庁舎に保管し、問い合わせに対応する。
- R4年度の掲揚数調査では、掲揚数34%と調査を始めてから一番高い数値となった。

実施年度	事業種別	ソフト
RI～R2	完了	
榊引地域振興計画での位置づけ (5) 地域づくりの推進		

事業名	「空にかける階段」インフォメーション事業
-----	----------------------

実績 (計画) 及び今後の方向性

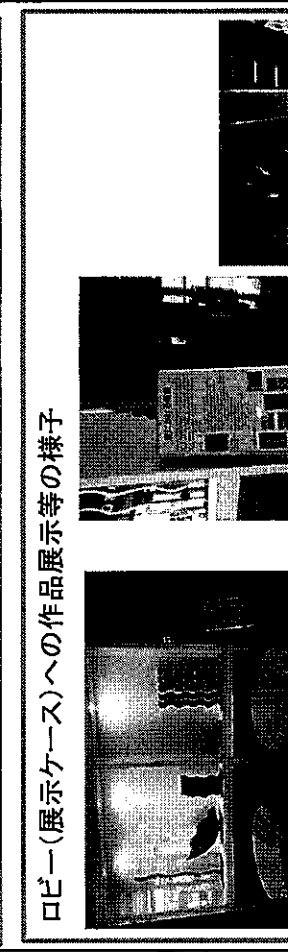
実績

- ・関係者による懇談会開催
- ・ロビー展示ケースへの作品展示
- ・紹介パネルの作成及びQRコードから紹介映像へのリンク
- ・榊引生涯学習センター内の各所への作品展示(ホール、ロビー、各会議室)

（背景）榊引地域出身の世界的彫刻家「富樫実」（名譽市民）の「空にかける階段」シリーズは、榊引地域の富樫ロード（仮称）や榊引庁舎を始め、市内では庄内空港、山形自動車道鶴岡IC、美咲町開発地、開運橋、千歳橋があり、国内外にも多数設置されており、その芸術的評価は京都市文化功労賞、紺綬褒章等を受賞するなど権威の高いものである。現在、氏の木製作品は、榊引庁舎に数多く展示、公共施設や民間企業に貸し出しを行うことで気軽に目にし触れられる展示を行っている。

（課題）氏の作品については榊引地域の各所に展示されているが、氏の人物像、功績、作品思想等の紹介が薄く地域住民より認知されていないという課題がある。

（住民ニーズ）榊引観光協会をはじめ地域の富樫支援者では、氏の功績を広く知らしめ後世に伝え、また榊引地域の芸術的シンボルとして「空にかける階段」を位置づけ、黒川能、丸岡城跡の観光資源に繋げたいという考えが以前よりある。



ロビー(展示ケース)への作品展示等の様子

事業目的

○世界的彫刻家である富樫実氏（名譽市民）の「空にかける階段」作品を紹介するブースを拠点として整備するとともに、市内各所に点在する氏の作品を観光回遊できる仕組みを作り氏の功績を広く伝える。

事業内容

- 名称 「空にかける階段」インフォメーションブース（仮称）
- 設置場所 生涯学習センター（ロビー）
- 内容
 - ・作品紹介ブースの整備
 - ・氏の彫刻作品や作品思想の紹介パネルとYouTube映像の検討
 - ・市内各所に設置されている作品を回遊できる仕組みづくり。
 - ・拠点整備のための関係者懇談会の開催。

上記の予定で進めていたが、施設改修を伴う展示を行うのではなく経費抑制などの観点から方向転換し、榊引生涯学習センターへの作品展示、紹介パネル作成、QRコードからの市HP紹介映像へのリンクを実施し、当事業としては区切りをつけて完了することとした。

評価

- ・QRコードからのリンクで紹介映像や富樫実ホームページの閲覧を容易に
- ・できることにより、市内各所にある石彫作品への見学者増が期待できる。

今後の方向性

- ・富樫氏の作品の貸し出し事業・榊引生涯学習センターへの展示について

実施年度	R1～R2	事業種別	統合(完了) ソフト
榊引地域振興計画での位置づけ (5) 地域づくりの推進			

実績(評価)及び今後の方向性

○飛躍的に普及拡大しているインターネットは、発信できる情報量が豊富で、即時性や経済性、双方向性といった特性を持っている。特にソーシャルネットワークやキングサービス(SNS)は、即時性及び経済性に優れており幅広い人々に情報発信が可能となる。

○ホームページやパンフレットは形式的であり、具体的な内容が伝わりづらい。

○榊引地域外の人々が榊引地域のタイムリーな情報について知る機会がほとんどない。

○KCTはあるものの榊引・朝日地域のみでありそれ以外の地域に動画で情報発信はできていない。

事業目的

近年の情報発信の多様化により市民や観光客の情報入手方法はホームページやパンフレットのみだけでなく、フェイスブック、インスタグラム、ツイッターなどのソーシャルネットワークサービス(SNS)を利用したものが増えている。SNSでは写真を中心とした文字での情報を、動画を活用した情報が発信可能である。これらを利用して、SNS世代である若者を中心に榊引のフルーツを中心として日常風景などを発信する。

事業内容

■SNS (facebook・instagram) の活用
 ・元年4月に立ち上げた「くしびきフルーツ日記」(R2年2月現在vol.58配信)において、静止画・イラストだけでなく果樹を中心とした作業や榊引の日常風景などについて動画と連動した情報発信を行う。

本事業については、令和2年度より「くしびきフルーツ振興プロジェクト事業」に統合し、内容を強化しながら情報発信を継続することとした。

実績

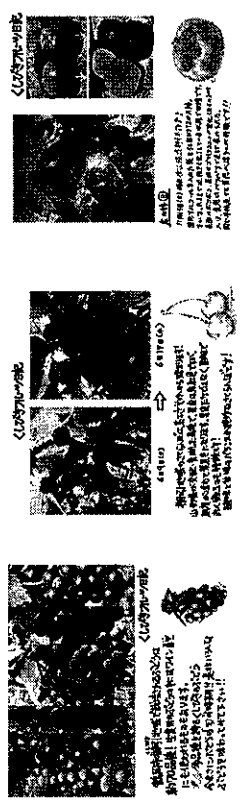
■ SNS 投稿数 (単位:回)

	メイン	動画	ストーリーズ (品種紹介)	投稿先
R1年度	61	—	—	Instagram Facebook
R2年度	60	7	50	



■ SNSフォロー数 (単位:人)

	Instagram	Facebook	合計	備考
R1年度	313	225	538	R2.3.31現在
R2年度	652	305	957	R3.1.31現在

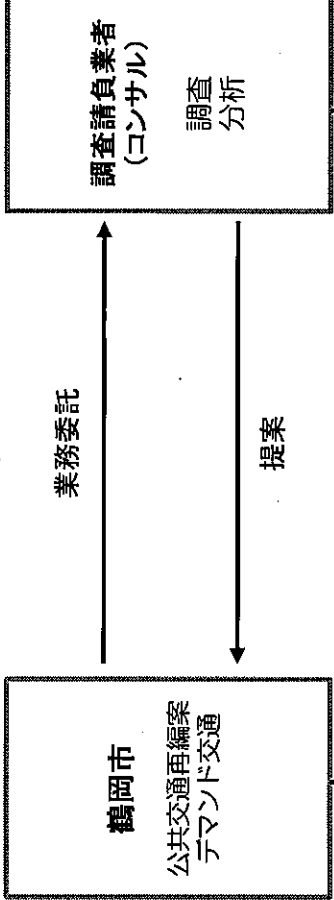


評価

- ・SNSによる情報発信の強化により、榊引産フルーツの訴求効果が高まった。
- ・「くしびきフルーツ日記」が配信されることで、農家の生産意欲の向上につながった。

今後の方向性

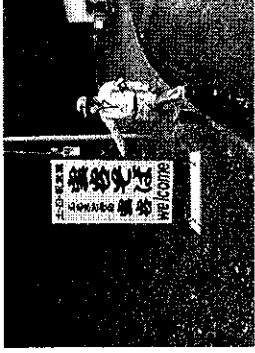
- ・本事業については「くしびきフルーツ振興プロジェクト事業」に統合し、プラットフォームを図りながら情報発信を継続する。

事業名	事業内容	実施年度	事業種別	完了ソフト
背景・課題・住民ニーズ	<p>背景・課題・住民ニーズ</p>	R3	事業種別	(5) 地域づくりの推進
<p>これまで既存の地域公共交通を活かしながら地域公共交通網を構築してきたが、利用者の減少やバス路線から離れた地域では公共交通を利用できなかつた。そのため、櫛引地域赤川右岸地区においてデマンド交通を導入したが、更なる交通利便性の向上のため具体的な調査・検討が必要な状況にある。また、市では、バス路線などの幹線については市の責務として維持に努めてきたが、利用者数の少ない路線の効率化も考慮する必要がある。庄内交通バス路線松根線の短縮された。</p>	<p>事業目的</p> <p>住民の利便性と公共交通空白地帯を生まない持続可能な公共交通体系を確保するため再編調査事業を実施している。</p>	<p>実施（詳細）及び今後の方向性</p>  <pre> graph TD A[「鶴岡市」 公共交通再編案 デマンド交通] -- 業務委託 --> B[調査請負業者 (コンサル) 調査 分析] A -- 提案 --> C[住民 交通事業者] B -- ヒアリング --> C A -.- ヒアリング -.-> C </pre>	<p>完了ソフト</p>	<p>完了ソフト</p>
<p>事業内容</p> <p>1 これまで行われてきた調査事業の結果や路線分析などを活用し、市で計画してきた再編案についての検証と裏付けの調査等を専門家に委託した。</p> <p>2 デマンド交通実証実験運行等のデータを分析し、市民にとってより利用しやすい運行計画を提案。（報告 令和4年3月28日）</p> <p>※既存の交通網を含めた藤島・櫛引地域全体の地域公共交通再編の調査・提案等を業務委託したもの。</p>	<p>※成果品については、令和4年3月下旬に受領し、デマンド交通構築の参考とした</p>	<p>R3完了</p>	<p>R3完了</p>	<p>R3完了</p>

事業名	「でわ宝」で地域おこしプロジェクト事業		実施年度	事業種別	ソフト
東京・秋超・住民三ノ 宝谷地区は「そば」を核とした地域づくりに取り組んでおり、「ふるさとむら宝谷運営管理組合」でそば店舗を運営しているほか、県産そば新品種「山形BW5号（宝谷では「でわ宝」として商標登録済）」の県内最大の産地となっている。 （作付面積：約33ha） ・地区内人口が24世帯74名にまで減少、高齢化率も55.4%となり、（R4.3.31現在）住民同士の共助にも限界が見えている。 ・将来的な地域づくりを見据え、平成30年7月に「宝谷地区集落ビジョン」を策定。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、ソロキャンプ等のニーズが高まっており、キャンプ場利用者が増加傾向にある。	宝谷地区集落ビジョン」の達成のために行う事業に対して支援する。 (1) 「宝谷そば」のブランド化（収益力向上、後継者育成） (2) 情報発信の強化（関係人口の増加） (3) 集落ビジョンのブラッシュアップ（集落の維持・活性化） (4) 宝谷キャンプ場等の地域資源活用事業の継続拡大 (5) 「でわ宝」を核とした地域活性化	R3～R4	事業種別 (5) 地域づくりの推進	R4完了	ソフト (5) 地域づくりの推進
事業目的	「宝谷地区集落ビジョン」の達成のために行う事業に対して支援する。	R3～R4	事業種別 (5) 地域づくりの推進	R4完了	ソフト (5) 地域づくりの推進
事業内容	宝谷地区地域資源活用事業補助金〔R3予算額：1,000千円〕〔R4予算額：935千円〕 【R3事業内容】 (1) そば関連商品の販売促進 (2) 地域資源活用促進のための環境整備（案内看板、キャンプ場整備） (3) 集落ビジョンの中間評価、ブラッシュアップのためのワークショップの開催 【R4事業内容】 (1) 地域資源活用のための環境整備（キャンプ場照明整備） (2) 「でわ宝」（そば、そば粉）の販売促進 (3) そば店舗集客力向上の取組み（遊歩道を活用したウォーキングイベントの実施） (4) 新商品「乾麺」のふるさと納税返礼品登録と販売促進	R3～R4	事業種別 (5) 地域づくりの推進	R4完了	ソフト (5) 地域づくりの推進
【評価】	・案内看板及び照明設備の整備により施設利用者の利便性の向上が図られた。 ・集落ビジョンのブラッシュアップにより達成に向けた機運の醸成が図られた。 ・そば及び乾麺の販売促進の取組みにより今後の収益の増加が期待出来る。 ・ウォーキングイベントの実施により、そば店の新たな顧客層にPRすることが出来た。	R3～R4	事業種別 (5) 地域づくりの推進	R4完了	ソフト (5) 地域づくりの推進
【今後の方向性】	・施設管理やイベントの実施等について助言や協力をを行い、引き続きそばを核とした地域づくり活動を支援していく。	R3～R4	事業種別 (5) 地域づくりの推進	R4完了	ソフト (5) 地域づくりの推進



集落ビジョンのブラッシュアップ
(R3年度)



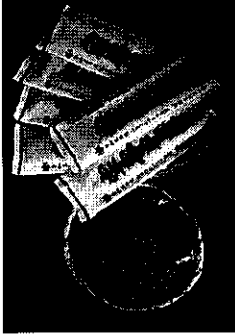
案内看板設置(R3年度)



キャンプ場照明整備
(R4年度)



そばのお花見ウォーク(R4年度)



「乾麺」販売開始 (R4年)

【評価】

- ・案内看板及び照明設備の整備により施設利用者の利便性の向上が図られた。
- ・集落ビジョンのブラッシュアップにより達成に向けた機運の醸成が図られた。
- ・そば及び乾麺の販売促進の取組みにより今後の収益の増加が期待出来る。
- ・ウォーキングイベントの実施により、そば店の新たな顧客層にPRすることが出来た。

が

【今後の方向性】

- ・施設管理やイベントの実施等について助言や協力をを行い、引き続きそばを核とした地域づくり活動を支援していく。

実施年度	R2～R4	事業種別	完了 ソフト
榊引地域振興計画での位置づけ (5) 地域づくりの推進			

実績(評価)及び今後の方向性

※未来事業としての位置づけは完了したが継続する

【実績】

健康づくり、介護予防、閉じこもり予防、生きがい・絆を深める活動
体操・軽スポーツ・レクレーション・創作・芸術・研修・学習施設等

「お役立ち講座」リスト ↓

令和2年度 R3.3.29 初版	90 部
令和3年度 R3.12.27 改訂第2号	160 部
令和4年度 R4.10.27 改訂第3号	160 部

- 配布先 ↓
- ・ 榊引地域21地区
 - ・ 社会福祉協議会 榊引
 - ・ 榊引地域通いの場他活動団体
 - ・ 榊引生涯学習センター
 - ・ 榊引地域婦人会
 - ・ 榊引地域老人クラブ

【今後の方向性】

- ・ リスト配布は、地域の各種事業の企画等情報提供のため継続する。

高齢者が住む地区の中に、気軽に歩いて参加できる活動の場(活動拠点)の継続設置や新規開設へつなぐ

【評価】

- ・ 高齢者を対象として関係機関や個人等が実施している様々な分野の講座メニューや、その申し込み先などをわかりやすく一覽で整理・配布し、事業実施をサポートできた。
- ・ 各種団体の要望や反響を受け、リストを広く配布したことにより、各種活動への意欲や関心が高まる効果が得られた。

- 【参考】
- ・ 地域介護予防活動支援事業【長寿介護課】
 - ・ いきいき百歳体操講座【長寿介護課】
 - ・ 生涯現役推進事業(なり元気塾)【市社協事業】
 - ・ 福祉活動支援事業(サロン活動)【市社協事業】
 - ・ その他【地区単独事業】

R4完了(未来事業の位置づけとしては完了)

事業名 榊引地域いきいき健康活動拠点運営への支援事業

背景・課題・住民ニーズ

平成29年度までは、地区公民館等の施設を使用しながら概ね65歳以上の高齢者を対象に、語らいや交流、運動や健康づくりなどを通じて、閉じこもり・認知症などの予防と要介護状態にならないことを目的として、榊引地域の多くの地区でいきいき健康クラブ運営事業(介護予防事業)が実施されていた。

現在は、介護保険法の改正に伴い、市全域で長寿介護課が所管する「地域介護予防活動支援事業」に移行し、年間を通して定期的に運動(体操)を取り入れることで、高齢者の基礎体力・筋力アップを図ることで介護予防の効果を高める内容に見直されている。このため、いきいき健康クラブ運営事業とは取り組み内容が大きく異なっているため、従来の事業を代替するには至っておらず、移行を断念し高齢者同士の交流や語らいなどの機会を失っている地区も一部ある。なお、住民自治総合交付金の見直しにより、地区の判断で自由に活動できる財源が多くなりとも交付されている。

事業目的

高齢者の健康維持、生きがいづくり、閉じこもり予防のために各地区が自主的に取り組む活動を支援するため、各種講座・研修を企画するにあたり参考になる講座メニューやその申込先をわかりやすく一覽にまとめたリストを作成・配布する。

事業内容

各種講座・研修を企画するにあたり参考になるリストを作成するとともに、各種事業の情報提供をしながらサポートを行っていく。

- ①情報の収集
- ②提供メニューの検討・照会
- ③リストの作成・配布
- ④情報提供・事業啓発
- ⑤地区が行う事業のサポート

また、活動ができていない地区および継続が困難な地区については、意見交換等により情報収集を行い、施設見学を共同で行う事業について検討を行ったが、予算・安全の両面から移動手段の確保等が困難であり、共同開催による解決は難しいとの結論に至った。

地域への帰属意識の低下や高齢化の進行に伴い、これからの高齢者活動はますます難しくなっていくことが予想される。高齢者の孤立化や心身のフレイルを防止する等、老人クラブや各種高齢者団体の果たす役割は重要であることから、今後も高齢者活動のあり方についての検討や各種の支援、相談について継続していく。